

2011年12月20日 第494号 (隔月20日発行)

アジアの友

The Asia-no Tomo

12-1

DECEMBER-JANUARY

2011-2012

ヘン・フチョン氏に聞く
ドイツから見たユーロ危機
—EUとユーロの歴史と背景—



ABK留学生友の会の1年

今年も留学生達と楽しく各所を巡りました

春



お花見 (小石川植物園)



根津・谷中散策



花火大会 (松戸)



トトロの森・狭山湖探訪

夏



高尾山紅葉登山



諏訪神社夏祭り (日暮里)



鎌倉散策



スキーツアー
(長野エコバレー)



月刊 アジアの友

2011年12-2012年1月号 第494号

目次

- 2 新春のご挨拶 小木曾 友
- 3 「ABK 同窓生募金」のお願い ～目標5千万円達成のために～
ヘン・フチョン氏に聞く
- 6 ドイツから見たユーロ危機
～EUとユーロの歴史と背景～
- 18 留学生の就職
特定非営利活動法人 留学生職業能力開発センター
- 23 私の意見・私の体験
「一人では歩めない日本留学の日々」
ガームポー・パットラーウット
- 26 News & Topics
- 28 Event & Festival
- 29 知友会通信
奨学金情報、イベント情報
- 31 MEMBERS
ご入会・ご寄付のご報告
- 32 募金途中報告
ABK 同窓生募金 (2011年11月31日現在)

<表紙> ABK 日本語学校「新校舎予想図スケッチ」

新春のご挨拶

(財) アジア学生文化協会 理事長

小木曾 友

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

この表は、2011年12月16日現在の「ABK同窓生募金」に寄せられた寄付金の国・地域別総額です。この中には、200万円以上のご寄付を下された方が、タイ1件（団体）、日本1件（個人）、100万円の方が、ベトナム1件（個人）、マレーシア1件（会社）、中国1件（個人）、日本1件（個人）が含まれています。

2010年6月に「1人1万円、1灯やがて万燈となるごとく」をモットーに始まった「ABK同窓生募金」は、タイ、マレーシア、中国、ブラジル、日本などにおいて、東日本大震災、タイ大洪水、円高、ヨーロッパの経済危機などの逆風にもかかわらず、「1波は万波を呼ぶ」運動となり、2011年12月末には2500万円を超える勢いで増えつつあります。

本誌本号では、各国・地域で「ABK同窓生募金」に取り組んで下さっている同窓生の皆様の目を見張る活躍ぶりを特集させていただきました。

心からの感謝を込めて。

2011/12/16 現在 ABK 同窓生募金集計

国・地域	件数	合計額
日本	202	8,986,062
タイ	46	5,020,426
マレーシア	97	3,524,125
ベトナム	6	1,413,000
中国	37	1,880,000
韓国	5	410,000
ブラジル	7	427,015
カンボジア	1	300,000
インド	7	190,000
シンガポール	4	190,000
台湾	5	95,000
香港	3	70,000
ミャンマー	1	50,000
バングラデシュ	2	40,000
イラク	1	10,000
インドネシア	1	10,000
パキスタン	1	10,000
ペルー	1	10,000
ラオス	1	10,000
その他	2	1,050,000
合計	430	23,695,628

「ABK同窓生募金」のお願い ～目標5千万円達成のために～

時下 愈々ご清祥のことと拝察いたします。

さて、ABK関係者の皆様には、かねてご協力をいただいてまいりました「ABK同窓生募金」につきましても、タイ、ベトナム、マレーシア、日本などをはじめ世界19か国・地域の同窓生の皆さまの多大なご協力をいただき、寄付金総額は、今年12月8日現在、18,340,628円に達しました。しかし、5千万円の目標額にはまだまだ遠い道のりにあります。これには、ABK自身の努力が足りず、お願いの趣旨が関係者の間に十分浸透していないため、と反省しております。一方、今年3月11日に起きた東日本大震災と福島原発の事故により、東北地方を中心に甚大な被害が引き起こされ、日本人の関心が（そして世界の人々の関心も）全部そちらの支援に向けられ、「ABK同窓生募金」への関心が薄まってしまったのではないかと考える次第です。それでも、世界中で活躍するABK同窓生の皆様のご深いご理解と温かいご協力によって、1千5百万円を超える寄付が集まったということは、本当に有難いことであると感謝いたしております。

ABK日本語学校の新校舎の建設は、3月11日の大震災・原発事故以後、留学生の来日数の大幅減少などの見通しに沿って、当初の計画を第1期工事（建設費2億6千5百万円）、第2期工事（建設費2億6千5百万円）に分けるなど修正を余儀なくされましたが、2012年12月頃までに新校舎を竣工させる（第1期工事）、という計画に変更はありません。（資料2）また、東京都に対する学校法人の認可申請手続きは2012年4月には始まりますので、それまでには、どうしても学校運営準備金5千万円の募金目標を達成しなければなりません。

今、日本をはじめ世界にはABK関係者（ABKの現・元職員を含む日本人関係者、会員などの支援者及び在館、在校、身元保証等ABKと何らかのご縁のあった留学生・研修生OB/OG、企業、大学、留学生関係団体等）が多数おられますが、今日までご寄付をいただいた方々の総数は、まだ300人余に留まっています。お1人で2度、3度とご寄付いただいている方、「知っていれば協力するのに、なぜ今まで知らせてくれなかったのだ」とお叱りをいただいた方も多々あります。

つきましては、アジアをはじめ世界で活躍するABK関係者の皆様のお力を結集させ、ABK日本語学校新校舎建設を実現するために、改めて「ABK同窓生募金：目標5千万円」

の達成をめざして、一口1万円のご協力を賜りますよう、さらに、本募金の趣旨に賛同されるABK関係以外のすべての方々にも広くご支援をお願い申し上げる次第です。

ご寄付下さった方々は、金額の多寡にかかわらず、お名前を記念銘板に刻印し新校舎に掲げて長く保存させていただきます。

東日本大震災、福島原発の事故、円高、そしてタイの大洪水、ギリシャをはじめとするヨーロッパの経済危機など、今、日本もアジアも世界も未曾有の危機的状况に見舞われておりますが、このような難局にあっても、日本人とアジアの人々が「一燈やがて万燈となるごとく」友好を深め、戦争のない平和な世界の未来をつくるために、今後もアジア文化会館（ABK）の役割は決して小さくないものと信じております。穂積五一先生によって創立され50年の風雪に耐えてきたABKが、装いを新たに、また次の50年、その使命を果たすための第一歩として、ご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

敬具

2011年12月

財団法人 アジア学生文化協会
理事長 小木曾 友

【ご送金の方法】

1)、2)、3) のいずれかの方法で、ご送金下さい。

1) クレジットカード決済による送金（下記ウェブサイトで手続きできます）

寄付のお申し込み：アジア文化会館同窓会ホームページ <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/fund.html>

*セキュリティ上の必要から、1回のご送金は上限300,000円（参拾万円也）でお願いします。300,000円を超える場合は、2回以上に分けてご送金ください。

2) 銀行振込みによる送金（下記銀行口座にお振り込み下さい）

銀行名：みずほ銀行 本郷支店

口座番号：普通預金 NO.2789045

口座名義：財団法人 アジア学生文化協会

住所：東京都文京区本駒込 2-12-13

電話番号：03-3946-4121

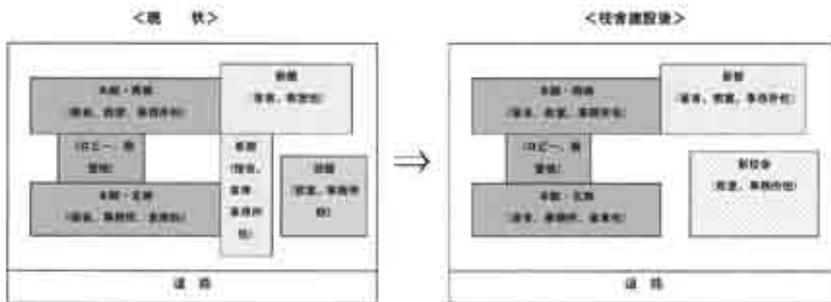
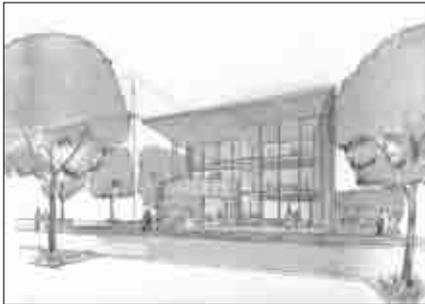
*お振込みの際は、必ず、住所、氏名をご記入下さい。

3) 郵便振替による送金

郵便振替口座 00150-0-56754

加入者名 財団法人 アジア学生文化協会

資料1 新校舎予想図スケッチ



資料2 寄付者の顕彰

「ABK 同窓生募金」にご協力いただいた方々には、次のような顕彰を行わせていただきます。

1. 金額の多寡にかかわらず、お名前を新校舎に掲げる銘板に刻印し、長く保存させていただきます。
2. 5万円以上（2回以上ご寄付いただいた方は累計で）ご寄附いただいた方々には、相応しい顕彰の方法を考慮中です。
3. 500万円以上の方には金額に応じ新校舎の教室、備品などにお名前を刻印させていただきます。

以上

ヘン・フチョン氏に聞く

ドイツから見たユーロ危機 EUとユーロの歴史と背景

ギリシャの債務問題とギリシャの国家破綻の危機に端を発したユーロ問題とEU。徐々に来日したドイツに暮らすヘン・フチョン氏に、ドイツから見たユーロ危機とその背景について、さまざまな角度からお話を伺いました。

ユーロ誕生の背景

現在、ユーロ通貨はEU27か国のうちの17か国が採用しています。これは1993年のマーストリヒト条約により制定されたのですが、EUに加盟する全ての国がユーロ通貨システムに参加する義務はあるけれど、すぐ導入しなくてもいいことになっています。各国の事情に合わせて時間をかけて自国通貨との調整をして移行すればいいということになっています。ですから今ユーロ通貨を導入しているのは27か国中17か国です。

ではなぜ共通の通貨をつくったのか。つまり貿易によりそれぞれの国の通貨が影響を受けますね。この為替の変動リスクを回避するにはどうしたらいいか。今は円高ですが、第二次世界大戦後はイギリスのポンドも力を失い、フランスのフランもダメになった。そこでEUとしては域内の貿易を安定させるために共通の通貨をつくらうということになったわけです。

ユーロが策定されたのは1999年ですが、それはまだ決済などの書類上のものであって、実際にお札やコインができ上がって流



ヘン・フチョン (邢福忠 Heng Fu Chong)

1939年マラヤ連邦 Kuala Trengganu 生まれ。1959年来日。1964年京都大学理学部（電子工学）卒業。1965年東京大学生産技術研究所 研究員。

1969年渡仏しパリでフランス語を学ぶ。1973年～1975年、西ドイツ・ベルリン工科大学建築都市工学科講師。1975年～1980年、ベルリン・サイエンスセンター IIM・システムアナリスト。1981～1997年、ボン・東アジア研究所・研究員。1988～2010年、ボン大学 日本研究室・講師

通を始めたのは2002年1月1日からです。これを今まで使っていたドイツのマルクやフランスのフランなど自国の通貨と交換したわけです。ただし1年～2年は移行期間として平行して使っていましたから、ドイツで店に行くと、値札にユーロとマルク、両方の値段が書いてあるという時期がしばらく続きました。

EUのはじまり

そもそもヨーロッパは第二次世界大戦での破壊やたくさんの人の死を経て、これからは「平和」、「自由」、そして「よりよい生活」という、3つのスローガンを掲げたわけです。そして1952年にフランス、西ドイツ、ベネルクス3国（ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）にイタリアが加わりヨーロッパ石炭鉄鋼共同体というものをつくりました。これがそもそものEUの始まりです。

世界史的にこれは意義のあることであって、それまでの第一次、第二次世界大戦では、戦争する人間は武装しないとイケない。その武装する上で必要な兵器は石炭と鉄鋼からつくられています。そこで石炭産業、鉄鋼産業のドイツが持っていた権利を7か国が共同管理する委員会に委ねることになったわけです。自分の主権の一部を共同管理にしたことで、ある意味でドイツがコソコソと再武装などしていないか、チェックができるようになったわけです。

そこから始まって1957年にはヨーロッパ経済共同体をつくりました。「石炭鉄鋼共同

体」、「経済共同体」、それから「原子力平和利用共同体」の3つの共同体＝欧州諸共同体（EC）をつくり、本部をベルギーのブリュッセルに置いたわけです。その当時、いろいろな紛争がありましたから、それを裁判するためにヨーロッパの裁判所もルクセンブルクにつくりました。そして1958年にフランスのストラスブールにヨーロッパ議会もつくったんですね。ヨーロッパ委員会というのは政府のような、いわゆる行政ですが、ストラスブールの場合は議会、つまり立法です。当時、立法はそれほど重要ではなかったのですが、象徴的な意味があるわけです。それから先ほどの裁判、司法ですね。

そういうことをどんどんやっていき、やがては政治的統合も目的とするのですが、各国の主権の問題がありますから、これはなかなかできない。またその時は冷戦の関係やアメリカとの関係もある。特にフランスはいつもアメリカに敵対、とまでは言えませんが、対等であろうとしている。当時のドゴール大統領は1963年にイギリスがヨーロッパ経済に加盟しようとした時、拒否権を行使して2回却下しました。ドゴールの考えではイギリスはしよせん戦後ヨーロッパにおける「アメリカのトロイの木馬」でしかない。ところがドゴールが死んだ1973年、イギリスも、デンマークなどもECに加盟してきたわけです。それでだんだん発展して行っただけですが、1970年代の半ばころ、世界的な不景気になって、各国とも保護主義的になってくる。それではいけないということで、その時出てきたアイデアが共通の通貨をつくる

うというものでした。

ところがやはりブリュッセルの委員というのは各国政府から派遣された人たちが集まっていますから、自国の利害を中心に考えてしまう。だから利己主義というか、なかなかうまくいかない。これもいかんということで、もう一歩政治的に統合が必要ではないかとなって、考えられてきたわけです。

1980年代になってくると、みなECへの関心はそれほど強くなり、ECのいろんなところでスキャンダルが出たりと、みなもうやりたくないとなってきた。

ヨーロッパの場合は6か国からイギリス、アイルランド、デンマークが入った。そして次にギリシャ、スペインとポルトガルとなるわけですが、ポルトガルの場合は50年間独裁政治が続いていたわけです。アントニオ・サラザール、あるいはマルセロ・カエターノといった首相が独裁政治を行っていた。そこで民間の人たちがドイツやスペインに行っているいろいろ工作をして、ポルトガルの独裁政権が終わるように仕向けて行ったわけです。結局ポルトガルは1974年に軍事クーデターがあり、アフリカと植民地の関係で、少し社会主義的な思想を持っていた若い軍人が政権をとり、すぐ植民地、アンゴラとかモザンビークなどを解放させた。つまり一つの民主主義に入ったわけです。

スペインは、1936年のスペイン内戦があり、ヒトラーとイタリアの援助で共和派に勝ったフランシスコ・フランコが三十数年独裁政治を行っていました。フランコが亡くなったのは1970年代の後半で、その後1980年代に入

り国王が出てきて、議会政治をやることになったわけです。

ただこの二つの国というのは民主主義になったけれどもやはり経済的な基盤が弱かった。そういう意味でECが80年代になって、ECの金で、インフラプロジェクトの援助を大々的にやり、その国の経済の基盤を強化してきたわけです。ECにはそうしたことにお金を出すための地域発展基金があるわけです。

ギリシャは1970年代に軍事クーデターがあり、かなり問題がありましたが、1979年の終わり、1980年代の始まりに軍事政権が崩壊して、民主主義になり1981年にECに加盟したわけです。その際ECもインフラ・プロジェクトで基金からお金を出した。

だから1980年代はECにとってはかなりのそういった問題があったということです。

その後1989年の社会主義体制の崩壊で東ヨーロッパも変わり、ソ連邦も崩壊して、東への拡大もプログラムに乗ってくる。これでローマ帝国時代のヨーロッパ版図ができそうだと、政治家は一生懸命になっていました。

そこに少なくとも1992年までに加盟国内で一つの経済圏を、単一市場を作ろうという一つの構想が持ち上がりました。もちろんそれまでも経済圏はありましたが関税を払わないといけなかった。今度は域内だったらスペインのものをドイツに持って行っても、全然チェックはない。そういうことを目標に1992年までにこの単一市場システムが検討され、1993年1月1日に完成しました。

また、1992年2月にマーストリヒト条約の

調印。各国での批准作業を経て、1993年11月1日にマーストリヒト（欧州連合）条約が発効し、欧州連合＝EUが発足しました。マーストリヒトというのはオランダの都市ですが、そのベルギーとドイツに近いところに各国の元首達が集まって、これをつくったわけです。今から見れば政治的には中途半端な統合であるわけですが、1993年にEUが正式に発足しました。

現在は物流はもちろん、人もそうで、スペインの人がドイツに行って会社を作ったりすることも、ドイツの人同様簡単にできるわけです。つまりそれが目指しているのは労働力の移動です。今ではブルガリアとルーマニアを除いた25か国はどこの人でも労働者として自由に移動できるわけです。仕事が見つかればその国の人と同じ条件で仕事ができる。これが非常に自由になってくる。

ある人がギリシャのアテネで花屋さんをやっていたが経済危機があって、花を買ったお客さんがお金を払ってくれない。それで頭にきて商売をやめてエストニアに行き、すぐ店を開いた。それはEUの市民だからすぐできるわけで、そういう人はわりと多い。地元の不動産屋の差別もない。もし差別があれば告訴できます。なぜかというユーロ市民権があるから法的に守られているんです。

だから今はだんだんそういう形になってきています。私の場合だと、ドイツに住みたくなくなって、スペインとかオランダに住みたいとなったらすぐできるということです。

なお、言語については27か国で使われている23言語、どれもが公用語となっていま

す。ですから重要な会議の時などはEUにはそれを通訳する義務がある。だから通訳料、翻訳料はEUの年間予算の1割から2割を占めています。

EU以外の外国に対しては共同関税を敷いています。市場権はドイツ国内にはなく、ブリュッセルにあるわけです。だからある意味1993年から貿易の主権はブリュッセルにきたわけです。こうして内部は便利になりましたが、自分たちは“ヨーロッパ人”という意識はまだできていません。

安全保障の問題

経済と通貨連合だけではなくて、もう一つ外交と安全保障の問題があります。EUではやはりそれを統合させようということです。今まで安全と外交というのは各国が守っていたわけですが、今度はブリュッセルにも外務大臣のようなポストを作り、安全保障と外交の問題を徐々に統合させて行こうということです。

もう一つは警察権と司法権。ルクセンブルクにヨーロッパの裁判所はありますが、これはECがEUの法律に基づいて裁判をすることであって、各国はみんなそれぞれ自分の裁判権を持っています。その警察権あるいは司法権を徐々にEUに移行させる。これはマーストリヒト条約の重要な部分です。その時出てきた一つのアイデアというのは、EUをつくり、政治的統合をするのなら、憲法を、ヨーロッパ憲法のようなものを作ろうじゃないかということで、多くの国が賛成したわけ

ですが、オランダとフランスの反対でダメになった。その代わりに2000年、EU市民の基本権の憲章（欧州連合基本権憲章）をつくったわけです。これは54箇条で、自由とか人権、労働、健康、教育・・・という市民憲章が謳われました。

1946年に国連でもヨーロッパ人権宣言というのがありますが、あれは宣言であって、法的な拘束力がなかった。ところがこの基本権憲章は、2009年のリスボン条約の発効によってEU27か国内で法的な拘束力を持ったわけです。イギリス、アイルランド、チェコが反対をしましたが、アイルランドは2回目の国民投票で賛成に、イギリスとチェコは結局反対はしないけれど、いくつかの箇条について保留をすることにしたわけです。そういうことで今この憲章はヨーロッパの憲法に近いものになっています。

そうしたことが進んでいた2004年に東ヨーロッパの国々、チェコ、スロバキア、スロベニア、マルタ、キプロス、などの国が一挙に加盟してくる。その前（1994-1995年）にオーストリア、スウェーデン、フィンランドが加盟し、2007年にはブルガリアとルーマニアが加盟、EUは計27か国となりました。

ユーロならではの危機

EU27か国中17か国が共通通貨であるユーロを導入していますが、共通の通貨を持ったことで、今まで一つの国で持っている主権であった通貨の為替、その権利を放棄したことになります。造幣はヨーロッパ中央銀行の

判断で行いますから、今までは各国の主権であった利子の調整を自国で出来なくなるわけです。

例えばギリシャの場合だと、もしユーロに入っていなかったら、自分の国の経済の状況を見ながら通貨の引き下げを行えたわけです。ところが共通の通貨になってくると、それができなくなる。しかも一つ考えて欲しいことはギリシャの年間の国民総生産（GNP）はEU全体27か国総合の25%しかないんです。ところが、共通通貨だからあまり重みを持たなかった国が危機を引き起こしたというわけです。

みんなギリシャのことを言うけれど、アメリカの場合、カリフォルニアなどはすごい借金です。GNPの比率で言うとギリシャよりひどい。ギリシャは160%くらいだけどカリフォルニアは200%くらいではないですか。だから知事も辞めざるをえなかった。映画のようにはいかなかったわけです。

ただアメリカの場合は中央銀行があって、それを救済するためドルを一生懸命発行すればいいわけです。ギリシャも以前なら自分で発行すればいいわけですが、それができない。じゃあ誰ができるのかというと、ヨーロッパ中央銀行ができる。ただし通貨をじゃんじゃん出すとインフレになる。他の国はあまり敏感ではないけれど、ドイツ人というのは歴史的にインフレに非常に敏感です。

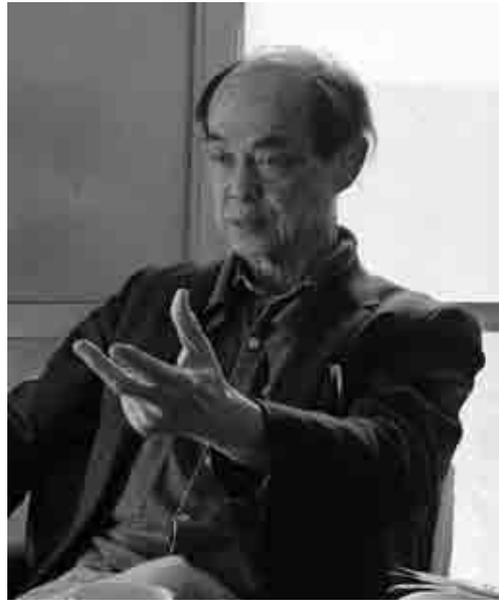
なぜそこまで敏感かということ、1920年代にドイツはインフレに見舞われたからです。だからドイツの連邦銀行の最重要任務はインフレーションを防止すること。そこにドイツ

とほかの国の対立がある。だから今は皮肉ですが、ECやEUをつくったとき、ドイツは主権を徐々に引き渡すことになったわけですが、今になってみると重要なことを決めるのは、つい最近までブリュッセルではなくてパリとベルリン、ほとんどがベルリンです。要するにベルリンがイエスかノーかの問題なんです。ドイツは最大の出資国でヨーロッパ中央銀行に力を持っていますから、ノーというドイツの意見は大きいということです。

もう一つの考え方として、EUは5億の人口です。EUの一人あたりの国民総生産は、だいたい日本の一人あたりのGNPに匹敵するんです。ですから世界的に見て一番大きい市場ですよ。しかもEUの域内貿易は65%を占めています。ちなみにアセアン10か国の域内貿易はたったの25%ですよ。つまり中国にとっても日本にとってもアメリカにとっても他の国にとってもEUが最大の市場なんです。これは強いですよ。しかも対外貿易にはそれほど依存していない。だからだんだん日本もアメリカも中国もロシアもその圧力を感じ始めたわけで、ユーロの問題はEUの問題ではなくなったわけです。

だから今まで第三者の立場で見ていたユーロの危機がだんだん自分のことになってみな慌てている。今はヨーロッパ中央銀行、ドイツだけではなくて国際通貨基金、アメリカの連銀、日本の日銀も緊密に協議しています。

EUがダメなら世界貿易はダメになる。まず中国が困る。日本も困る、アメリカも困る、ロシアも困る。ですから私はユーロの危機はなんとかなると楽観視しています。つぶれた



ヘン・フチオン氏に聞く

らみんなが困りますから。東京電力と同じですよ。

EUの問題

EUで問題なのはギリシャにしてもスペイン、ポルトガルにしてもそういった債務のことです。マーストリヒト条約、あるいは2009年に策定されたリスボン条約に厳しい罰則を入れなかった。共通の通貨を持っているにもかかわらず、各国が財政権を持っているということです。

エストニアやスロバキアなどは小さな国で一時はすごく負債を抱えていましたが、今は自活できるようになった。ギリシャがユーロ圏に参加したときは、アメリカの大手投資銀行と組んで財政赤字をごまかすためのいんちきをやったわけです。そういう国を入れてしまったわけですから、後にサルコジ大統領が

ギリシャは入れるべきではなかったと言っていました、後の祭りですね。

だから今はなるべく中央銀行がお札の印刷機を動かさないように、世界レベルで解決しようと考えているわけですが、もう一方でギリシャやイタリアのような国の財政権をいかに制限するか。場合によっては主権を停止させ、EUの人材を派遣して財政を建て直す。これが一つの方法ですね。

ギリシャというのは隣にトルコがあるわけですね。ギリシャは共通通貨を持つ前にはみんなが休暇に行く所です。ところが、ユーロになって物価が上がり、それで隣のトルコの通貨がどんどん下がるから、これまでのお客が全部トルコに行ってしまう。そうした問題も考慮しないと、いくら腐敗がどうこうと言っても解決しない。

たしかにギリシャの場合は公務員の数がEU平均の倍なんです。だからそういう非常にルーズな国だということはみんなわかっていたことで、今更の問題ではない。それはEUの政治家の責任です。なぜ何もしなかったかという、政治家達はベルリンの壁が壊れてこれからは自分の天下だと思った。加盟国の数をどんどん増やして行って、自分が歴史的な現場に立ち会ったという政治的名声を考慮し優先したからです。経済の側面を無視して、政治の側面だけ見てどんどんEUを拡大して行った。拡大して行けばある段階でそれを固めないといけなのに、固める前にまた拡大して行った。それは経済的な考慮ではなくて政治的な考慮です。そのことは今、みなが反省しています。

政府というのは多かれ少なかれ借金がある。日本場合は国民総生産の200倍の借金を背負っている。ところが日本の借金というのは日本人が持っているから問題ない。一方でギリシャが持っている借金はEUの中の銀行とか、フランス、イタリアの銀行、あるいはアメリカ、イギリスの銀行の負債です。銀行というのはそういう負債の期限が来ると回収しないとイケない。回収しないと会社と同じように倒産する。それをどうやって防ぐかということです。

為替権利はできるけど、各国の借金というのは財政権、予算権なんです。マーストリヒト条約で、国内総生産(GDP)は毎年3パーセント以下で押さえようという基準を作ったわけですが、ドイツは6%とか、ずっと超過です。返済能力があるからいいけれど、ギリシャ人から見れば自分たちだっやってるじゃないかとなるわけです。

ヨーロッパの政治家はそんなにバカじゃない。ユーロ危機に対してアメリカは自分のことを棚に上げてしっかりしろと言っているけど、アメリカ自体すごい負債をしてる。ドルも下がっている。だから今度は軍事的な行動に出てくる。

ただアメリカの場合、戦争するつもりはなくて脅迫して、中国に対して経済的利益を引き出そうとしている。しかしアメリカが中国を封じ込めると逆効果として、中国国内のタカ派が出てくるわけです。アメリカは軍事的な脅威があるので軍事予算を増やせと言う逆効果が中国国内に出てくる。それは賢明ではありません。

真の多民族・多文化へ向かって

ドイツの若い人は夢があります。EU というのは建設中の工事現場という意味で、まだ完成していませんから、自分の意思でいくらでも変えられる。ですからみんな希望を持っています。

デジデリウス・エラスムスというロッテルダム出身の哲学者、神学者がいますが、彼の名前をとってEUの予算でエラスムス奨学金というのがつくられました。例えばドイツのどこかの大学に在学中の学生がエラスムス奨学金をもらってイタリアのどこかの大学で半年から1年間勉強する。するとそこでの単位はドイツの大学が認めるというシステムになっています。だからどんどんエラスムスの奨学金を出して若い人たちの交流を奨励しているわけで、これはEUにとって非常に重要なことです。

もう一つはイタリアのフィレンツェというところに1970年代から欧州大学院=European University Institute (EUI) というのがあって、そこで勉強している者のほとんどはEC学、あるいはEU学を勉強している。そういうところもつくられています。この大学は将来のEC、EUの人材を養成するという意味もあるわけですが、今はEU以外の国からも学生が来て学んでいます。

また、20年前にECの枠内でボローニャプログラムというのができましたが、これはEU各国で大学制度を統一化しようではないかというものです。大学のレベルでそれをやっっていこうと。ドイツでもフランスでもボロ

ニャプログラムの提案にしたがって国内の大学の制度を変えて行くという作業を今やっています。

だからヨーロッパの青年、特にドイツの青年というのは、単一民族から多民族、多文化に向かっている。その中でEUとのかかわり合いを持って行くわけです。

受験戦争のないドイツ

ドイツの大学はほとんどが州立で、教育費もいくつかの例外を除いて授業料がありません。あっても年間10万円くらいです。

また入学は高等学校の卒業証書があれば、あとは自分が行きたい大学に申請をして入るだけと簡単です。その代わり、卒業はなかなか難しい。日本のように4年で卒業させてしまうということはありません。今ドイツは中国の留学生がすごく増えています。

ドイツ人はオーストリアとかハンガリーなど周辺の大学に行く人もいますが、そちも学費は無料です。ヨーロッパ大陸ではイタリアやフランスでもドイツと同じでほとんどが授業料はとりませんね。

ですからドイツでは大学のランキングがなく、受験戦争もありません。ただ、〇〇大学の経営学科にいい教授がいるからそこに行って勉強する。大学を選ぶ理由はそれだけです。もちろん就職の時も大学の名前は関係ありません。

戦後日本人が大挙してアメリカに行って、ヨーロッパには行かなかった。1980年代、日本人はもうドイツから勉強するものはないと

言っていた。たしかに日本の制度はドイツを模したのですが、それは戦前の帝国ドイツのもので、現代のドイツはとっくの昔に古い制度を放棄している。とくに学生運動があったからドイツはだいぶ変わった。社会のシステム、メインストリームが変わったということです。

日本の学者は一時日本の強さは受験戦争があるからだと誇っていましたね。1950年代にはアメリカの学者が中国や東アジアの国の経済が発達できなかった理由は儒教にあると言っていました。それがいつの間にかアジアの経済発展は儒教のおかげだとなっている。学者というのはそうやって人を騙して儲けているんです。まあそれはいいとして、それに乗っかってしまうとバカですね。自分は自信を持ってということです。

歓喜の歌と青山栄次郎

EUでは今若い人が集まると、必ずベートーベンの歓喜の歌を歌います。あれはEU連合の歌になっている。それを歌うことでEUと自分たちのつながりを感じるわけです。

これを提案したのは青山栄次郎さん（ドイツ名をリヒャルト・クーデンホーフ＝カレルギー）で、オーストリア人の父と日本人の母を持つ政治活動家です。彼は第一次世界大戦後1920年代から汎ヨーロッパ主義を唱え、運動を続けてきました。当時のヨーロッパは民族主義、人種主義で非常に狂っていた時代で、ヒトラーは彼のことをバスター（雑種）と言ってバカにしていました。そしてヒトラ

ーが政権をとって1938年にオーストリアを併合させた時、彼はポルトガル経由でアメリカへ亡命したんです。

だから彼の思想は後にEUを作った数々の政治家に影響を与えました。そのおかげで1945年、彼はフランスに戻って来てまた運動を再開しました。

ドイツにアーヘンというカール大帝が戴冠式をした由緒ある都市があって、そこに市がつくったカール大帝賞というのがありますが、1950年、青山さんはその第一回目の受賞者になりました。みんなに言わせると「EUの父」というのでしょうか。カール大帝賞というのは毎年一つの団体や個人を選び出して、ヨーロッパの統合に貢献してきた人を表彰していますが、その第一回目が青山さんだった。だから近年アジア共同体をつくるという話がありますが、このアジア共同体を支持してきた人たちの名前にちなんで、カール大帝賞と同じ賞をつくって毎年表彰すれば、民間レベルでも認識されて行くのではないのでしょうか。

これがある意味で一つのヨーロッパの土台だと言えます。ベートーベンの歓喜の歌、エラスムス奨学金、それからカール大帝賞です。

多民族という流れに対する反発

これは大きな問題です。この間の世論調査で3割のドイツ人が多民族化に反対すると言われていました。ドイツは東ドイツのこともあり、ネオナチ思想が残っています。最近もネオナチの10年以上に渡ったテロ行為がドイツ警

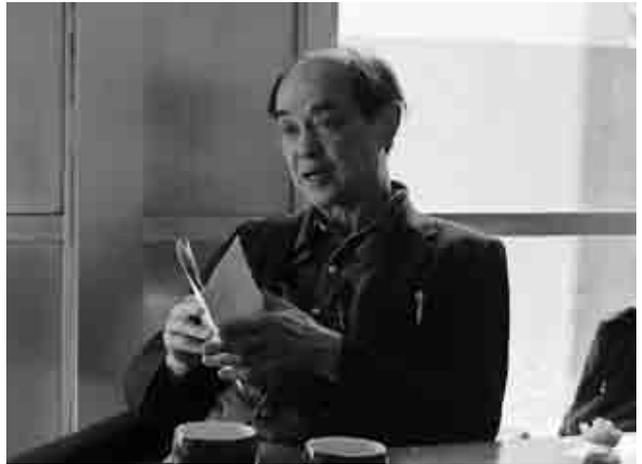
察によって発覚し、市民を驚かせました。

若い人は最初から統一ドイツですから問題はありませんが、東ドイツ出身の年配の人は東ドイツという国は良かったという思い込みがある。しかも、それによって得をしていた人たちがいるわけです。官僚とか軍人とかです。それが一夜にしてなくなったのですから不満がありますね。そういう不平不満を言っている親の子供がネオナチになったりする。そういうことです。この間のテロリストの一人の父親は大学教授で、決して貧乏な家庭ではありませんでした。

ただドイツの一つのパターンというのはネオナチがどこかでデモをすると必ずそれに反対するデモが出てくるということ。もちろんそうした人は命を狙われ、殺されたり脅迫されたりといった事件はしょっちゅうあります。ネオナチはドイツの暴力団です。外国人に対してだけではなく、自分たちに反対するドイツ人に対しても手を上げるんです。

ドイツの移民とトルコ人

今ドイツの外国人は人口の1割=800万人でその中の400万人はムスリムです。そのうちトルコ人は300万人で、そのほかはアラブやイラン、ギリシャの人で外見がドイツ人と違います。彼らは軽食店、雑貨屋、ネットカフェなどいわゆる零細企業を営んでいることが多い。



トルコは今EUの候補国で、加盟国ではありません。1964年には準会員でしたが、ずっと棚上げされて、やっと2005年あたりから正式に会員国になる交渉を始めました。しかし残念ながらいろんな国が反対して実現していません。今ドイツにいるトルコ人は労働移民として来た人たちで、二世三世の代になっています。

もう一つの現象としてトルコは今海外からの送金がブームになっています。ドイツに生まれた二世三世の人は国籍はドイツだけれど社会でかなりの差別があって、自分の好きな職業がなかなか見つからない。そこで自分がドイツに住んだ経験、学識をイスタンブールに戻って、トルコ政府も少し助成をして会社を作ったり、トルコの大会社に入ってヨーロッパを相手に貿易などをする。そういう人たちが今活躍し、トルコの経済界を盛り上げています。ドイツに生まれて、日本の在日のような人たちですが、そうやって行ったり来たりする人が増えてきている。だからトルコは自国の経済力がだんだん良くなってき

ています。

ただいろいろ考えてみれば経済はよくなっているけれど、クルド族の問題という大問題が解決していない。隣のイラクで一番経済が豊かなところは石油のある北部で、クルド人の地域です。今ドイツからトルコ経由で人材がたくさん入っている。すごく立派なホテルが出来て、観光業も発達している。だからそこに将来クルド人の国ができるかもしれない。トルコはそれを一番心配しています。このクルド族のことを根本的に解決しない限り、EUにはすぐには入れないでしょう。

ドイツにいる300万のトルコ人はだいたい3つに別れている。一つはスンニ派というイスラム教徒で、これがトルコ人のメイン。もう一つはアレヴィー派と言って特徴はモスクを持たないこと。集まるときも男女が一緒に帽子をかぶらない。非常にリベラルです。だからトルコの文学や文化をかなりアレンジしています。

もう一つがクルド族ですね。この3つに別れています。トルコ、トルコと言っているけれど、クルドか、スンニ派かで対応が違う。例えば私の友人の奥さんはトルコのアレヴィーの女性で、私も時々ベルリンに行ってみんなの家族に会ったりしますが、いわゆる普通のムスリムの雰囲気とはちょっと違います。

ところで、最近ドイツの年金生活者でトルコに移住する人が増えています。向こうはドイツに比べて非常に物価が安いからです。ドイツは年金だけで暮らすのは厳しいのですが、その年金や健康保険はトルコでも受け取ることが出来るので、特に海に近い気候の良

いところにドイツ人村ができています。

福島と東ドイツ

ドイツでは、給料から連帯税という税金を必ず引かれています。これは東ドイツ復興のために使われる税金です。西ドイツ6000万人の人口で2000万人の東ドイツの人の面倒を見てきたわけです。日本の人口は1.2億人ですよ。福島はたった200万人ですよ。今緊急の事というのは、人々が日々放射能の脅威にさらされているということです。有名な先生がいろいろなことを言いますが、放射能のあるところよりも無いところのほうがいいのは間違いない。だからここが不思議で、この200万人が自分で自活するために、お米や果物や野菜を売りたいわけです。でもそうするとまた更に混乱してきますね。だから1億の人口が200万の福島人をなぜ支えられないかと。ドイツの例を見なさいと。6000万人が今でも2000万人の面倒を見続けている。連帯税を払って東ドイツの復興にあてているんです。

日本は先進国で、技術もお金も持っている。それなのに放っておくのはいけないと思います。何ミリシーベルトは害がないと言いますが、要するに放射線に当たらないほうがいいのは確かなんだから、放射線の無いところで生活するのが一番じゃないかと。

客観的な政策をやらないと、農家が1年間やって10トンのお米がとれても、問題が出てくる。でも売らないと生活に必要な現金は入ってこない。

色々な問題の解決には時間がかかるでしょうが、早く対応してあげないといけないと思います。

ドイツは福島原発事故以降、すぐに首相が原発停止声明を出しましたね。ドイツは、選挙の比例代表で政党に投じられた票が連邦全体で5パーセントの得票率をとれば国会議員を出せる。特に「緑の党」というのは当初から誰にでも分かりやすい3つの目標・「戦争反対」、「環境保護」、「原発反対」を掲げて30何年間ずっとやってきた。

1978年頃ドイツでTVのゴールデンタイムに放映されたユダヤ人「ホロコースト」(視聴率が50%を超えた)により世論が変わり、政府も大人もホロコーストについて語り始め、青年には政治への関心や批判が生まれた。家庭で子供から「なぜあの時あんなひどいことをしたのか、あなたたちは黙っていて反対しなかったのか」と問われる。

ですからまた「なぜ原子力は危ないのにあなたたちは黙って阻止しなかったの」、「だから私たちは被害者になった」と将来子供から文句を言われないように、ここで自分が反対をしないといけない。福島原発事故後のドイツ国民のリアクションは、そういう自分自身への一つの問いかけですよ。

そういう意識を持って今のドイツの多くの人はやっているんです。

私の友達ですと緑の党に投票している人がいます。よくよく彼の話を聞くと、自分は特に緑の党が好きというわけじゃないけれど、ただ彼らは「原子力発電反対」を掲げているので、それだけでずっと投票をしていると。

そういう人はけっこう多い。

今でも緑の党支持者は全国で16%ですよ。16%というのは二大政党が競う場合のキャスティングボードになる。そこで連立政権になってくると必ず緑の党と談判する。緑の党は3つの目標を掲げているから、その目標が満たされるならば一緒にやりましょうと。もしダメならやらないと。そういう力まで持ってきています。

国境検査のない素晴らしさ

EUは1995年には国境検査が正式に撤廃され、隣の国に自由に入れるようになりました。私の友人の京都大学の教授がたびたびドイツに来て、フランスとかベルギーなどを私と車で旅行するんですが、1980年代はまだ検問があって、パスポートを見せないと他の国へは入れませんでした。ところが1995年以降は同じ場所を何もないうまま通りすぎる事ができる。それを体験した教授は「こんな世界があるのか!」と驚いていました。以前検問所があったところは観光誘致のオフィスになったりしています。

フランクフルトの空港に降りると、そこには一つの検問がありますが、域内の移動者にはハンコも捺してくれない。だから私の友人などは、わざわざ係官のところに行って、ハンコを捺してくれと頼むんです。ドイツに入った記念が欲しいと。今は27か国がそんな感じになっているんです。

(終)



留学生の就活-Vol. VI

特定非営利活動法人 留学生職業能力開発センター

International students Career Development Center (CDC)

理事長 早川芳子さん 副理事長 河野忠生さん

神奈川県を本拠に活動する CDC は、留学生が将来のキャリアを考え、日本での仕事の選択をするために、ビジネス日本語講座をはじめとした各種就職支援講座の開催、適正に合った企業選び、エントリーシート（履歴書）の記入方指導、模擬面接の実施など、留学生が内定を勝ち取るまでを徹底的に支援する NPO 法人だ。

また内定後の在留資格変更のためのサポートや、就職した後も学生たちの声を聞き、悩みがあれば相談に乗るなど、留学生の日本での就職をトータルにサポートしている。スタッフには日本語教師や元大学職員、企業の人事担当者など豊富な人材が揃い、留学生に適切なアドバイスを行える体制を整えている。留学生の就職に的を絞り、ここまで総合的な支援を行う団体は、他に例を見ないのではないだろうか。

CDC の活動と留学生の就活における課題について、CDC 理事長の早川さんと副理事長の河野さんにうかがった。

—— どのようなきっかけで、この組織を立ち上げたのでしょうか。

早川 私は女子大学の就職課で長い間学生たちの就職支援を行ってきました。就職課では



河野さん

早川さん

もちろん日本人、留学生を問わず支援を行うのですが、日本人学生で手いっぱい、留学生まで手が回らなかったというのが現実でした。ところがその後国際交流課に異動になり、留学生の面倒を見ることになって考え方が180度変わりました。就職支援で留学生がスポイルされていて本当に申し訳なかったと思ったんです。そこでその年は一生懸命留学生の就職に取り組み、当時4年生が15人くらいだったこともあり、全員を就職させることができました。ただその時思ったのは、一つの大学で留学生の就職環境を整えるには限界があるということです。そこで、留学生支援に係わる方々の賛同を得て、退職する2年前に CDC を組織し、留学生の就職活動（就活）を応援

していくことになりました。

これからの日本社会は外国人の力を借りなければやっていけませんね。ところが一番近い所にいて頼りになるはずの留学生が日本で就職できずに困っていた。彼らのために何をやらなければならないかを話しあい、CDCが設立されたんです。そして企業の人事担当者へインタビューをした際、何よりも日本語力が求められ、日本の商習慣や日本人の心を知らないと、日本就職は難しいということがわかりました。そこでそういった視点から、支援講座をスタートしました。

—— 具体的にはどのように指導しているのでしょうか。

早川 私たちは2年間かけて留学生を就職に導くためのカリキュラムを開発しました。これらは「就職に向けて準備する」「日本のビジネス社会を体験する」「日本を知る」から構成され、就職準備のための日本語講座、就職準備のための英語講座、就職準備講座（セミナー）、インターンシップ、日本文化体験など、体系的にプログラム化されています。

最近の日本人学生は“キャリア”ということをしごく意識していますが、アジアからの留学生はキャリアについてあまり真剣に考えていません。彼らは自分のことは自分が一番よく知っていると言いますが、実際に履歴書を書かせてみると、しっかり自分を表現しPRすることができない。また、留学生の場合は日本人以上に大企業志向が強く、誰もが有名企業に行きたいと言いますが、日本就職の成功は必ずしも大企業への就職ではありません。また、有名企業に行きたいという思いは



就職準備のための日本語講座（自己PRを考える）の様子

強くても、実際自分が社会人としてどの程度の基礎力を持っているのかはわかっていない。

そこで、本当の自分を発見する、自分はどうな価値観を持っていて、どんな能力を持っているのかということ客観的にゲーム感覚で知ることができるシートを開発しました。その結果を基本にして履歴書を書いてもらい、それを私たちが添削し、模擬面接を行います。これを繰り返すわけですが、もちろん様々な留学生がいますから、ケースバイケースで相談にのっています。

河野 私たちはいくつもの講座を持っているわけですが、そこで大きな柱としているのは、一方通行にはしないということです。講師が一方的に喋って終わりではなく、留学生の声を聞こうということですね。そして必ず何かお土産を持って帰ってもらう。またはその場で発言をしてもらうということを大切にしています。発言をすることによって安心感や自信のようなものが出てきますから。

—— 最近は多くの大学で講座を開設されているようですが。



マナー講座の様子

早川 大学で講座を開くようになったのはここ1～2年のことです。当初はCDC単独で講座を行っていましたが、労力がかかる割に集客力が上がらない。学生からすると、授業やバイトが終わった後に、わざわざ遠方の決められた場所に向かうのは金銭的、時間的にも難しいわけです。ですから大学の理解があれば学内で講座を開いたほうが学生には都合がいい。そしてその場で私たちの存在を知ってもらい、もっと相談がしたい人は直接連絡をしてもらおうという形に改めました。留学生の就職が悪いと言いますが、生活に追われて、自分で準備をする時間が十分でないというのが、留学生の就職率が上がらない原因の一つではないかと思えます。

—— 大学の姿勢や対応についてご意見はありますか。

早川 大学によって非常に温度差があるのが現実ですね。責任を持って最後まで面倒を見ようとしているのか、それとも入学後は自由に、就職活動は自分でやって下さいという考えなのか。それは大学側と接触する時、すごく感じるころではあります。

留学生というのは日本から世界に羽ばたく

最前線にいる人たちです。そういう意識を持って、自分の学校の卒業生に活躍してもらおうと思い育てているのか。その辺りの考え方によってまったく違ってくるのではないかと思います。

河野 ある大学のキャリアセンターでは担当の職員が学生を100名単位で抱えていて、学生が予約をしても、面談できるのは早くも2週間、下手をすると1か月後になってしまうと言います。そうなる留学生はおのずと足が遠のいてしまう。また、留学生の為にガイダンスも、担当者が一方的に話すだけです。初めて聞く言葉もたくさんあって何が何だかわからないまま消化不良で終わってしまう。結局大学の施設を使うことを躊躇するようになってしまうわけです。

早川 4年間、どういう学生生活を送るかによって、日本での就職の成否が決まります。4年後に日本で就職をする、または帰国して母国の日系企業で働こうというのであれば、ビジネスで通用する日本語と日本の文化を学んでおくことはとても大切なことで、そうした情報は入学時に学生に伝えておかなければいけないことだと思うのですが、それができていない。

さらに3年生になった時に、留学生たちをどうやって大学のキャリアセンターに引きつけてサポートするのか。その辺りの積極性が今一つなのかなと思います。おそらく大学の業務は縦割りですから、1年生の時は国際交流課や留学生課に顔を出して、そこではスタッフとの関係ができるけど、3・4年生になって今度は就職課だよ、と言っても、留学生は行きづらいのではないのでしょうか。だから就活支援がうまくいっている大学というのは、そ

の連携もとてもうまくできています。

河野 私が気になっているのは、就職に失敗した留学生が安易に大学院に進学するという事です。その時教員が相談に乗っているのか、本当に大学院で専門を極めたいということであればいいのですが、就職に失敗した時の受け皿として進学する。大学院を出たら就職が有利になるかという、日本の場合は逆の場合もあるわけで、留学生はそういった実態を分かっていない、知ろうとしていないということを痛感します。

—— 直接企業を紹介するという事は行っていないわけですね。

早川 私たちはNPOですから就職の斡旋まではできません。そこが私たちの泣き所であるわけですが、それを補うために、今年から人材紹介を行う企業と連携することにしました。先方もビジネスとしてではなくて、社会貢献の一環としてやりたいと引き受けてくださいました。普通の人材紹介と違うのは、紹介する前に私たちが教育プログラムを行うという点です。日本の文化や商習慣に関する知識がどの程度あるか、どの程度の日本語力を持っているかを見極めるためのテストをして、この人なら大丈夫という学生だけを推薦します。そして就職先企業についてはその会社が責任を持って斡旋するというシステムです。

この教育プログラムに参加した学生は今年7名でしたが、これを軌道に乗せて、優秀な学生はどんどん推薦できるような態勢を整えていきたいと思っています。

—— 留学生の就職で特にハードルが高いと感じられるのはどのような点でしょう。

早川 秋になってまだ決まらない学生というのは、だいたい年齢が27歳～28歳です。母

国の大学を出てから来日し、日本語学校に通い、また学部に進学したという人たちですね。日本の学生が22歳～23歳で卒業するとしますと、留学生の場合はプラス3歳～4歳上ということで、これが企業が躊躇する一つの要因かなと思います。もちろんそれ以上に彼らの語学力やグローバル性などをアピールするのですが、特に留学生採用の経験の無い企業には、なかなか理解してもらえないようです。——日本人の就職率が上がらない一方で留学生の就職が伸びていると聞きますが、一概にそうとは言えないわけですね。

早川 そうですね。それに理系と文系の違いもあります。初めから留学生を採りたいという企業の多くは海外に拠点を持っているメーカーで、技術者が欲しいわけです。技術者の場合は人材が不足していることもありますが、わずかな年齢差はあまり問題になりません。

河野 それに加えて留学生の一流企業志向の強さが、余計にハードルを高めています。面談を何度も行い、日本の中小企業の素晴らしさを説いて、少しずつそちらにも目を向けてもらっていますが、やはり誰もが知っている大企業に行きたいという思いを簡単にぬぐい去るのは難しいようです。

早川 今年内定したある学生ですが、彼は大手志望だったのですが、なかなか内定が出ず、大学の先生の紹介で私たちのところへやって来ました。彼は大手に行きたいという気持ちが強く、気持ちを切り替えてもらうのが難しかったのですが、説得をして、まだ間に合う中小企業をいくつか受けてもらいました。すると立て続けに2社から内定をもらい、そのうちの大阪の会社に就職をしました。今はとても喜んでます。

—— **活動を通して成果を感じるのはどのような時でしょう。**

早川 留学生には何度も履歴書を書いてもらい、私たちが何度もそれを添削して、最初に出されたものと最後のものとは雲泥の差があるわけですが、お互いそうした努力を積んで最終的に内定に至った時は、がんばって良かったと思います。また、学生との関係は就職後も続いているわけですが、それは彼らが本当に困っているとき、精神的に不安なときに私たちが寄り添えることができるからなのではないかなと思います。少し難しい問題でも経験のあるメンバーが直接留学生に会って励ましてあげられること。そこが私たちボランティア団体の強みかなと思うんですね。決して事務的、機械的ではないということなんです。

—— **今後の展望、課題などがあればお聞かせください。**

河野 幸いにも十数名のスタッフは人と接することが好きで、本当に留学生のことを考えている者ばかりです。中にはスタッフを日本のお父さんお母さんとして接してくれる留学生もいます。ですから、私たちも彼らの親になったつもりで、ここはもう少し厳しく接していこう、ここはもう少し親身になっていこうと、留学生それぞれに合わせて、手を替え品を替えというのでしょうか、柔軟に対応していければと思っています。

早川 こういう草の根の活動でテーマになるのはやはり活動費ですね。留学生はすごく力

を持っていて意欲も高いので、日本の若者ももっと留学生から学んでもらいたいと思いますし、そのための支援という所にはぜひ助成が欲しいと思っています。

今、日本語の講座に玉川大学の学生さんたちに来てもらい留学生と交流を持っていますが、それは以前から私たちが狙っていたところで、今の日本人学生たちには外国人の良いところ、文化や考え方を吸収して欲しいし、留学生にも同世代の日本人から机上では学べないものを学んで欲しい。お互いに切磋琢磨して新しい芽吹きとなれば良いのではないのでしょうか。

—— **茶道講座等、日本文化に関する講座もありますか？**

早川 一般市民の方にも来ていただいて、留学生と交流する機会をなるべく作ろうということですね。そうしたところで留学生と知りあってもらい、例えばお家に留学生を招待してもらおう。一般の留学生は、日本人家庭に招かれる機会というのはありませんから、「今日はうちでお茶一杯飲んでいって」という感じで、気楽に交流してもらえれば、留学生にとっても貴重な経験になるわけです。

そういった意味で、私たちの活動に参加して下さる方がもっと増えればと思っています。特に退職された方は能力も時間もおありだと思のですが、ぜひ私たちの活動に参加していただきたいですね。

—— **更なるご活躍を期待しています。**

特定非営利活動法人 留学生職業能力開発センター (CDC)

TEL・FAX 0467-25-5822 e-mail webmaster@cdc-japan.or.jp

URL <http://www.cdc-japan.or.jp>

一人では歩めない日本留学の日々

ガムポー・パットラーウット

(Mr. NGAMPHO PATTRAWUT) タイ

神奈川工科大学大学院博士前期課程機械工学専攻

ODOS 奨学生として

ちょうど僕が高校3年生になった2003年、タイ政府は、ODOS (One District One Scholarship) という奨学金制度を導入しました。この制度は、名前の通り一つの市から一人の学生を選び、奨学金を与えて国内外の大学へ進学させるというものです。自分の成績では難しいと思いつつも、もし実現できたら素晴らしいことだと思い、僕はODOSの試験に挑戦することにしました。そして幸運にも合格し、多くの留学先の中から日本に行くことを決めました。

日本を選んだのは日本の最先端技術や文化、日本人の考え方に以前から興味を持っていたからです。特に本やテレビから知った「自分自身の人生と会社の運命を結び付け、ライバル他社に勝つために、社員が互い

に協力し合い目標を達成させる」という日本人の帰属意識には強い関心を覚えました。最近の日本企業は欧米のように変わりつつあるようですが、その帰属性はまだ色濃く残ってい



ると思います。また、四季から来る日本の文化にも関心がありました。例えば「食欲の秋」や「旬の味」という言葉にみられるように季節に応じて料理が変わるのは、タイのように一年中食卓に並ぶ料理が変わら

ない国に暮らす僕にとって、とても興味深いことでした。

充実した日本留学

2004年に日本に来てから約1年半、ABK日本語コースで日本語を勉強しました。日本に来た当初は、ひらがなすらまともに読めませんから、何をするのも言葉の問題で不自由でしたが、同じタイからの留学生たちと、放課後一緒にご飯をつくって食べたり、勉強したり、お喋りをしたりして、とても楽しく充実した毎日を送ることが出来ました。

日本語学校修了後は神奈川工科大学に入学しました。日本の先端技術で特に関心を持っていたのが、飛行機や発電所で使われる発電用タービンのことでしたから、専攻はこの分野を学べる機械工学科を選びました。

大学に入ったばかりの頃は



日本語学校時代。箱根への修学旅行（最後方）

日本語学校の修了式で（後列右から2人目）



先生の話やボードの文字がほとんど理解できず、授業が終わってから隣の日本人学生にどんな話だったのか説明してもらい、なんとか理解するという毎日を送りました。もし友人たちのサポートがなかったら単位がとれず、2年生に上がれなかったのではないかと思います。

僕の学部は同じ学年に留学生は僕一人だけだったので、みんなも珍しがって親切にしてくれたのではないのでしょうか。もし留学生が多かったら留学生同士で固まってしまう、今のように日本人の友達はできていなかったかもしれません。だからついていると言えば、ついているんですね（笑）。

大学に入り、アパートでの一人暮らしがはじまると、日本語学校時代のように、いつでもタイの友人達と語り合うことができなくなり、少し寂しくなりましたが、新しくできた日本人や中国人の友達と、

勉強はもちろん、一緒に花火大会に出かけるなど、日本語学校時代とはまた違った貴重な交友関係を持つことが出来ました。お金が無かったということもありますが、長期休みの時は、彼らの実家にホームステイをさせてもらったり、大阪に留学中のタイの友人が暮らすアパートに居候して関西を旅行したりして過ごしていました。ですから今までの7年間で、帰国したのは学部を卒業した時の一度だけなんです。そのため肌の色も白くなっていて、空港に僕を出迎えに来た家族は、僕が目の前にいるのに、誰一人僕のことには気付いてくれませんでした（笑）。

仲間とともに大学院へ

機械工学というのは、機械をつくることと単純に考えていたのですが、実際はそのための様々なことを学ばなければな

りませんでした。例えば、数学も「ここまでやるの!？」というほど深いところまで学ばなければなりませんし、電子回路や制御に関する知識、プログラミングなど、想像以上に学ぶことが多くありました。

ただそうした困難も仲間と共に学ぶことで、楽しく乗り越えることが出来ました。お互いがお互いに気付かない意見を出しあい、足りないところを補いながらみんなで一緒に進歩して行ける。3年生の時はグループでロボットを造ったのですが、予想以上に難しく「俺達はまだ留年だ!」と叫びながらなんとか完成まで漕ぎ着けました。今ではとてもいい思い出ですね。

4年生になると、もっと専門を極めたいという欲求のほかにも、もう一度基礎から勉強し直したいという気持ちもあり、大学院へ進学したいと考えました。神奈川工科大学には成績が上位3パーセント以内の者は大



米山奨学生の懇親会で（左端）

他国の奨学生たちと（右端）



学院の授業料が免除される制度があり、幸い僕も仲の良かった友人5人もこの制度を利用できたため、みんなで進学しようということになりました。ただしODOSの奨学金は学部4年間で終わりです。授業料はかからなくても、そのほかの費用、生活費はかかります。自分のわがままでタイにいる両親に迷惑をかけるわけにはいかず、一時は進学を諦めようと思いました。

そんなとき、研究室の三澤先生や国際センターの塚田部長に薦めていただいたのが「ロータリー米山記念奨学会」の奨学金でした。申込みしてみると、また幸運にも審査に合格することができ、こうして大学院で勉強することができるようになりました。

米山奨学生になって良かったのは、多くのロータリアン（ロータリークラブ会員）の方々との出会い、話せる機会を通じて日本の文化・思考に触れることが

でき、日本や日本人に対する理解が深まったことです。おかげで、日本と母国の習慣や文化の違いに気付かされ、自分の姿を見つめ直したり、自国のありふれた日常生活に疑問を抱いたり、多くのことを考えることが出来ました。

修了までラストスパート

大学院では、ターピンと全く関係なく、今まで習ったことのない、「高分子材料の破壊挙動」を研究テーマとしました。ただ面白そうだからという理由だったのですが、その後、とんでもなく難しいものを選んでしまったと後悔しました（笑）。

今は論文提出まであと2か月のところまで来て、ある程度まで書き上げることができましたが、この実験結果を入れたらもっといいものになるのではないか、という思いが次々と浮かび、まだまだ時間

は足りません。ですから最近では研究室に泊まり込み3日連続徹夜をして4日目はいつの間にか寝てしまう、という毎日の繰り返しです（笑）。

今は実験と論文の完成のことだけで、卒業後のことまでは考えられませんが、ODOS受給の条件に「卒業後はタイで働くこと」とあるため、帰国してタイの日系企業で働くことになると思います。ただ、帰国後しばらくは実家でゆっくりしたいですね（笑）。同じODOSではドイツやフランスに行った友達もいますが、もう6年間連絡を取っていないので、みんなどうなったのか、帰ったら会うのが楽しみです。

今、僕がここまで来られたのは、タイ大使館学生部スタッフ、ABKおよび大学の先生・職員、ロータリアン、日本語学校や大学の友人・・・大勢の方々を支えてくれたおかげです。この場をお借りしてお礼申し上げます。

News & Topics

堀幸夫 A B K 理事が日本学士院会員に選出

当協会理事であり、本誌 492 号でインタビュー記事を掲載させていただいた、堀幸夫工学博士が日本学士院（久保正彰院長）12 月 12 日の総会で新会員に選ばれました。

学士院会員は特別職の非常勤国家公務員で、優れた功績の学者が選ばれます。任期は終身。会員は今回選ばれた新会員を含めて第一部（人文科学）63 人、第二部（自然科学）78 人の計 141 人。



堀幸夫氏のプロフィール

金沢工業大学学事顧問、東京大学名誉教授。機械工学専攻。工学博士

<以下は日本学士院のホームページより>

堀 幸夫氏は機械工学の基本現象である回転、潤滑、材料強度の三分野で、優れた業績を挙げました。滑り軸受で支えられた高速の回転軸に起こる烈しい振動（オイルウィップと呼ぶ）の本質を世界に先駆けて明らかにし（堀のオイルウィップの理論）、その回避法を示して、各種回転機械の高速化長軸化を可能にしました。現代の 100 万 KW を超える大型発電機が実用できるようになったのはその一例です。堀氏はオイルウィップに対する地震の影響についても研究し、その回避法を示しました。

潤滑の分野では、高速滑り軸受、磁気ディスク、磁気テープ装置などに用いる流体や空気による潤滑作用の精密な解析を行い、設計理論を創り優れた貢献を行っています。さらに高分子強度材料の利用に当たって、固体プラスチックの破壊、熔融プラスチックの流れなどについて先駆的な研究を行い、プラスチック材料の実用化に貢献しました。

同氏は、このように多彩な領域に亘って学術の飛躍的發展に寄与するとともに、工業技術の進展にも極めて大きな貢献をしています。

日本語コース 2011 年 10 月生研修旅行

去る 12 月 10 日（土）、2011 年 10 月生研修旅行が箱根にて行われました。一行 66 名（学生 60 名、教職員 6 名）は、芦ノ湖遊覧、大涌谷散策で、美しい日本の景色を堪能しました。またこの日はこの上ない晴天に恵まれ、参加者全員、美しい富士の山を背景に記念撮影を楽しみました。



Event & Festival

パユン・ワラシャナナン BANGKOK SIGHTSEEING

パユン・ワラシャナナン氏は東京在住のタイ人。タイでは日本人作家の翻訳書を含むいくつものベストセラー書籍の装画で知られ、日本のカルチャー全般に造詣が深く、日本とタイを結ぶユニークな創作活動が注目を集めています。彼女の絵の魅力は、面と線で構成されるクールなグラフィック感覚。モチーフとなる人物や風景など、彼女の前にある視野は全て、グラフィックツールを援用した精密なカラーエリアの組み合わせへと再定義されます。そのうえで、柔らかな色彩感覚やフォルムの捉え方、細部に隠されたユーモラスな設計など、欧米や日本のクリエイターとは微妙に異なるオリエンタルなフェミニンさが最大の持ち味になっています。

本展はパユン氏にとって2年ぶりの個展です。前回は、日本ウォッチャーのアジア人として代官山の街を描いたシリーズでしたが、今回はタイ、バンコクが題材です。風景や静物、人や動物など、何気ないタイの日常的物事に着眼したスケッチ的な絵画ですが、欧米人から見たコロニアル趣味でタイを捉えるのではなく、外側にいるタイ人として、パッセンジャーのように情感を抑えたニュートラルな視点で洗われたタイの姿に、私たちの既成概念の鮮やかな転換を促す新鮮な美しさが宿っているのを感じていただけるでしょう。

描き下ろしを中心に、約30点あまりのキャンバスパネル作品を展示・販売いたします。また、パユン氏とつながりが深いタイのプロダクトブランド「PROPAGANDA」の商品も紹介・販売。パステルカラーを中心とした、ポップでユーモラスなデザイン雑貨の世界もお楽しみいただけます。本展テーマは、洪水によって深刻なダメージを受けたタイの姿に心を痛めた彼女が選んだものです。本展の売上げの一部は、タイ洪水の被災者支援活動に寄付されます。

★日時：2012年1月7日(土) - 18日(水) 11:00-20:00
(最終日のみ 18:00まで 毎週木曜休廊)

★場所：GALLERY SPEAK FOR
(〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町28-2 SPEAK FOR B1F)

パユン・ワラシャナナン イラストレーター

1979年バンコク生まれ。シラパコーン大学卒業後、バンコクのデザインスタジオに勤務。デザインユニット「GOOD CITIZEN STUDIO」名義で「Lips」「MTV Magazine」など人気雑誌と数多くの書籍、Toyota Thailandなどの広告において、アートディレクションとイラストレーションを担当してきた。2006年来日し、多摩美術大学大学院で学びながら創作活動を続けている。2009年、GALLERY SPEAK FORにて個展「代官山でつかまえて」を開催。著書にタイ人向けの東京ガイドブック「OK GO TOKYO」がある。シラパコーン大学非常勤講師。



※各情報の詳細は主催団体ホームページ等でご確認ください。奨学金情報は、日本留学情報データベースサイト = JPSS (<http://www.jpss.jp/ja/>) にて検索が行えます。

しょうがくきんじょうほう 奨学金情報

■佐藤陽国際奨学財団 Asia 留学生奨学制度

対象:①バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、モルジブ、ミャンマー、ネパール、パキスタン、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナムから来日し、文部科学省所轄大学の学部または大学院に在籍する当該国の国籍を有する私立留学生 ②国際理解と親善に関心をもち、財団の交流会に必ず出席できること ③他の奨学支援団体等から奨学金に類する金品を受給していないこと ④在留資格「留学: college student」を有すること ⑤日本で就業している親がいないこと ⑥「博士」の学位を取得していないこと ⑦現在在籍している課程の在籍期間が奨学金受給開始時期から1年以上あること ⑧勉強・研究に支障のない日本語能力を有すること ⑨当財団の奨学生を終了後、同窓生として交流活動に積極的に協力できること

給付金額: (学部生) 月額12万円、(大学院生) 月額18万円

給付期間: 2012年4月から2014年3月までの2年間

募集人数: 若干名

応募方法: 在籍する大学の留学生課を窓口として、応募書類を募集期間内に留学生課から財団宛に郵送にて提出すること。

募集期間: 2012年1月23日(月)～1月26日(木)

団体連絡先: 〒153-0064 東京都目黒区下目黒 1-7-1 公益財団法人佐藤陽国際奨学財団 事務局 ☎03-5487-2775 URL <http://www.sisf.or.jp>



イベント情報

JOB博 外国人留学生のための合同企業説明会

- 日時：2012年1月21日(土) 11:00～18:00
(開場・受付開始 10:30 / 最終受付 17:00)
- 場所：パナソニックグループ本部 (東京都千代田区大手町 2-6-4)
- 対象：外国人留学生 大学生・大学院 (2013年卒業予定、2012年卒業予定、既卒)
- 内容：11:00 オープニング特別講演 前ユネスコ事務局長 松浦晃一郎氏「グローバル社会で活躍するために」
〈企業ブース〉外国人留学生を積極採用する企業がブースで会社説明会を実施。人事担当者に直接話が聞けるチャンス！
〈企業セミナー〉1回60分の着席型のセミナー。企業の事業内容や将来性、求める人材像をじっくり聞いて、企業研究に役立てよう！
〈Global Rookies セミナー〉日本で就職するには、何からはじめればいいのか？ 就職活動対策は、Global Rookies セミナーで学ぼう！
- 申込み：https://www.pasona-global.com/jobhaku/
- 主催：株式会社 パナソニック グローバル事業部
- 問合せ：globalinfo@pasona.co.jp

IFSA留学生就職フォーラム

留学生を積極的に採用する優良企業が多数参加する、合同企業説明会です。会社説明や、簡単な面接をする企業も一部あります。

- 第1回東京 日時：2012年2月23日(木) 13:00～18:00
会場：北とぴあ「展示ホール」
(JR京浜東北線「王子駅」下車 北口より徒歩2分、地下鉄南北線「王子駅」下車5番出口直結、都電荒川線「王子駅」より徒歩5分)
- 第1回大阪 日時：2012年3月3日(土) 13:00～18:00
会場：大阪国際交流センター「大会議室」
(近鉄線「大阪上本町駅」徒歩5分、地下鉄千日前線、谷町線「谷町九丁目駅」徒歩7分)
- 対象：2013年新卒の外国人留学生
- 申込み：参加のためには登録ID番号が必要です。IFSAのホームページより会員登録をしてください→http://www.ifsa.jp/

開催前に「招待状」メールが届きますので、印刷して当日ご持参下さい。

※ 事前に登録をしなかった方も参加することができます。当日直接会場にお越し下さい。

主催：特定非営利活動法人 国際留学生協会 (IFSA)

アジア人材 転職・就職説明会のご案内

日時：2012年2月25日(土) 12:30～18:00

場所：東京国際フォーラム 展示ホール1

(JR「有楽町駅」より徒歩1分、地下鉄有楽町線「有楽町駅」と地下コンコースにて連絡)

対象：日本およびアジア地域での就職を希望する外国人留学生・日本人学生(大学院、大学、短大、専門学校、日本語学校)、日本およびアジア地域での転職を希望する外国人・日本人、海外から帰国の日本人学生

内容：各企業ブースでの会社説明、面接会、就職ガイダンス、就職セミナー(就職に対する心構え、面接の受け方、履歴書の書き方、在留資格など、就職/転職に関する相談(行政書士による在留資格の取得・変更・更新など)に関する個別相談、総合相談)

持ち物：筆記用具、履歴書・職務経歴書(職歴がある人)、受付票・・・事前にホームページよりダウンロードしてご持参ください→<http://asiajobfair.net/>

主催：社団法人 東京都専修学校各種学校協会

問合せ：☎ 03-5423-0723 (10:00～18:00)

MEMBERS

〈ご入会とご寄付の報告〉

2011年10月

賛助会員

(1口)

雅留宮 久磨様/澄子 野田市
近藤 壮一様/みつ子 清瀬市

正会員

(1口)

樋口 敏子 佐倉市

小野里 光博

佐藤 和江

文京区

日野市

ご寄付

永山 保

西本 梶

和光市

横浜市

2011年11月

正会員

(1口)

中島 明彦/絢子 横須賀市
石渡 荘介 足立区

福井 道子

金野 隆光

豊橋市

柏市

ご寄付

栗原 静子

気仙沼市

皆様のご協力に感謝申し上げます。



ABK同窓生募金 (2011年11月30日現在)

ご協力ありがとうございました。募金のご報告は『アジアの友』並びに同窓会ホームページ
< <http://www.abk.or.jp/abkd/fund/houmeiroku.html> >で随時ご報告させていただきます。

- 目標額：5,000万円
- 募金額：16,350,628円
- 寄付者数：358件

〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC順。日本のみ五十音順

〈日本〉大澤龍、小野里光博、来山文泰、倉内憲孝、金野隆光、宅間薫、外山経子、深澤のぞみ、山崎光郎、Chatty B.Q. (ワタナベ)、50周年委員会売上

〈イラク〉Mudhafar Al. Jabiri

〈マレーシア〉Gan Teck Yeow、LIM PENG JIN (Scientex Incorporated Bhd)

〈中国〉Chen Xian (陳猷)、金東翰、朴順玉、孫前进、陳洪真、楊一帆、張航、賈蕙萱、高荣、金秋、張新、張新旺、劉映春、王巍

〈ブラジル〉ヤマウチ アツシ、ヤマウチ カズコ、Alice Nakamori

〈台湾〉廖婉淑

〈韓国〉禹守根 (在中国)

以上、33件

2011年9月31日以前の寄付者 (325件)

〈バングラデシュ〉A.K.M. Moazzem Hussain、橋本イスラム・ヌルール (在日)

〈ブラジル〉セキヤ タチバナ、フランシスコヒロノリ イシハラ、ミズマ アイコ タチバナ

〈カナダ〉張素華 (香港)

〈中国〉魏慶鼎、戴志堅 (在日)、李惠春、劉越 (在日)、劉明華、沙蓮香、倪玉、孟令樺・計宇生 (在日)、賈輔忠、趙偉路 (宮下偉路; 在米)、蔡堅平、郭南燕、李春利、Meng Xiao Xiao、全浩、Zhou Xiang、可軍 (広中軍二)、呂新一、Ou Yang Fei 欧陽菲 (在日)、Wang Wen 王穩

〈香港〉Choi Man Wa 蔡敏華、梁志瞬、YEUNG KING HONG 楊経航 / 蔡金燕 (マレーシア)

〈インド〉AAAWI (AOTS Alumni Association of Western India)、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、A. P. Wagle、Abul Sarah、Ashok Saraf、雅留宮久磨 (在日) / 澄子 (日本)、M. Ramamurthy

〈インドネシア〉Budhi Setiawan Kohar

〈カンボジア〉忍足林基 / 美恵子 (日本)

〈日本〉新井重光、荒川雄彦、池添尚行、池野朋彦・晶子、池森亮介、伊佐玲子、石井信彦、石原誉慎、石原廣、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、伊藤源之、伊藤順 (2)、岩尾明、岩佐佳英、上高子、植田泰史、畝本昌

介、漆寫才子、大久保伸枝、大谷里恵子、大村光、小木曾建（4）、小木曾大、小木曾友（3）、奥山節子、奥山義夫、小野寺武夫、小原正敏、加倉井弘行、勝部純基、河合秀高、川上剛、川崎依邦、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰、久津間優子、工藤正司、工藤幹夫（3）、久保哲也、栗原静子、黒田一雄、香月恵美子、小林泰子、金野隆光（2）、齋藤美知子、早乙女和義・博子、酒井杏郎、佐藤郁夫、佐藤正文（2）、佐藤玲、渋谷寧伸、清水勇治・泰代、尚美学園大学国際交流センター、白石勤、菅原照代、鈴木八重子、栖原暁、高木桂子、高道俊彦（2）、高野靖子、高橋喜久江、高橋作太郎、高柳直正、田川明子、田口昌子、竹嶋俊紀、竹田肇・和子、竹林惟允（2）、田中多美子、田中稔子・静子、田中美智子（2）、田中利恵子、谷口哲雄、田守智恵子（2）、近山武子、土屋幸子、土屋元子、鶴尾能子、寺尾方孝・三枝子、鴛田純一・由美（2）、堤祐子、戸田清、外山経子（6）、豊島由久、中曾根信（2）、中畠正喜、中原和夫、中元菅根、西垣宰朋、西嶋勝彦、西谷隆義、新田宣子、西原彰一、西村清人、西本梶、忍足絵美、忍足眞理、野口明美、野村美知子、秦幸吉、濱田洋子、林均、樋川好美、平井まりこ、平岡明子、平峯克、福讓二、藤原一枝、布施知子、細川哲士、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、榎操、牧美保子、松井正枝、松岡弘、松崎松平、宮内俊治、村山秀男、森尾正照、鮎下勝、山海保、山口憲明（3）、山崎光郎、山田守一、山田裕子、山之内正彦・秋子、湯山佳代、依田良子、吉田菜穂子、吉田裕子、吉原エツ子、六文会、渡辺讓二、匿名希望（3名）、50周年委員会売上

〈韓国〉韓英鳩、崔銀珠、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook 尹誠國

〈マレーシア〉Ang Wan Leng、Beh Teck Chuan、CHANG CHEW CHIN 張昭成、CHEW CHONG SENG 周昌盛、CHIA LITECK 謝礼得、Chiu Jin Eng 冰周人英 / 林惠冰、CHONG TEEK FOH 張德福、EE LEY TIONG 余励忠、FOO MING LIAN 符明蓮、FOO SIANG SENG 符祥盛、FOO SOO KONG 符素光、HEONG SEE YONG 香世運、KENNETH WONG 黃復翔、LEE KIAN LING 李建霖、LEE KONG/LAM CHOK YAK、LEE MIOW YING 李妙英、Lee Tee Boon、LEONG KEE HUO 梁其和、LIEW TECK BOON 劉德文、Lim Hock Lai、LIM SIN YEAN 林欣燕、LOKE HON YEE 陸漢宇、LOW KIM LEE 劉金莉、NG TIAN ENG 黃殿英、ONG CHENG CHUAN 王清川、ONG CHOOI LEE 王翠莉、PANG CHOON BOON 彭俊文、POH SIEW HUI 傅秀慧、Seah Boon Chieng、SIM KEE HONG 沈其豐、Soon Sai Kheng、SOO SECK HENG 蘇錫興、SU KUI SHENG 蘇桂昇、Tan Cheet Yong、TAN KEEHANG 陳繼漢、Tan See Seng 陳時生、TAN SOO SIN 陳素芯、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng、TANG ENG HUAT 陳永發、TENG KIM YIN 鄧錦雲、TEO KWEE SWEE 張貴水、Tiang Chuan Seong 鄭俊雄 Toh Leong Chee、WONG FEE PING 黃慧萍、WONG SENG KENG 黃成耕、WONG TZONG CHYANG 黃宗強

〈ミャンマー〉Aung Kyaw

〈パキスタン〉A.R.Siddiqi

〈ペルー〉Olga Shimada Keiko

〈シンガポール〉Foo Choo Wei、顏尚強、王發其

〈台湾〉Chen Ai Chi 陳艾圻、Liu Li Mei

〈タイ〉浅見博子、Bandihit Rojarayanont、Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul、Ditdi Chatputtongul、Gannnigar Koontanakulvong、神崎ソラダ（在日）、Kornkeo Praisontarangkul、Krisada Visavateeranon、Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham、Navarat Srisuponvanit、Niramai Thanatavee、小野崎忠士（日本）、Patamavadee (Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、

Pholchai Limviphuvadh, Pilaipan Mekaratana (2)、Pisan Thanatavee、
 Pornanong Niyomka H., Prayad Kongkasawad, Prayoon Shiowatana,
 Saowanee Patrakarn, Sathida Mekaratana, 新宅光, Sivaporn Sirilatthayakorn, Sucharit
 Koontanakulvong, Suchittra Hunbuncharkit (2)、Supong Chayutsahakij, Suthee
 Chutchaiwett, Suvit Vibulsresth, Tana Tangtrongsakdi, 泰日経済技術振興協会、泰日工業大
 学 (THAI-NICHI INSTITUTE OF TECHNOLOGY)、Vachiranee Limviphuvadh, Vachiraporn
 Limviphuvadh, Virat Thiravathanavong, Wannadee O'sorop,
 Wiwut Tanthapanichakoon、柳瀬修三、Yoshiko Limviphuvadh
 〈ベトナム〉 Dao Thi Minh、ドンズー日本語学校、Le Quynh Chi, To Buu Luong,
 Nguyen An Trung, Tran Thanh Viet

ABK 同窓生募金に関するメール

「ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund)」へのご協力をお願い

Dear Graduates from ABK Japanese Language Institute, Minasan ogenkidesuka? We hope this will find you in good health and spirits. We are pleased to inform you that we have finally decided the plan of "ABK Alumni Fund" as per attached pdf file. We are now informing all the ABK alumni in the world of the same asking for their generous assistance. Your kind understanding and cooperation will be highly appreciated. With best regards,
 OGISO Yu, Principal, Director General, The Asian Students Clutural Association.

ABK 日本語コース卒業生の皆様、その後ご無沙汰していますが、お元気ですか。かねてから準備をしてきました「ABK同窓生募金」(ABK Alumni Fund) を別添 pdf ファイルの通り決定し、皆様のご協力をお願いすることになりました。目標を達成するために、日本語コース卒業生をはじめ、全世界のすべての ABK 同窓生の皆

様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

なお、このお願いは、アジア文化会館同窓会 (ABKD) のホームページ、(<http://www.abk.or.jp/abkd/fund/index.html>)、

財団法人アジア学生文化協会 (ABK)
 理事長・校長 小木曾友

・2011/6/8 Tan Wee Seng (マレーシア)

ABK 理事長・校長 小木曾様、Tan Kee Hang (ABK 第2期生、星馬 金融業界 高級アナリスト兼 ボス；一橋卒)、Wook Fook Shyang(ABK 第2期生、株式会社 IMP、シンガポール事業所長；早大卒)、Lee Kian Lin(ABK 第3期生、ホンダ・タイ；筑波大卒)：全て Foon Yew 高校の卒業生

私は ABK 日本語学校第2期生の Tan Wee Seng です。ABK の皆様に関するメールを、小木曾さんから頂きまして、本当に嬉しく思っております。ABK 同窓生募金のご依頼につきましては、本当に同窓生としての私も、ご協力をさせて頂きたく思いまして、昨日にクレジット・カードで募金を送らせて頂きましたので、ご査

収宜しくお願い申し上げます。(決済を行ったウェブ・ページを添付致します) 最後ですが、ABKでお世話になった皆様(工藤さん、近藤さん、Fooさん、倉部さん、白石さん、栖原さん、松井さん等の方々)に宜しくお伝え下さるようお願い致します。ABKは引き続き多くの方々にも恵まれた環境の中、必ず更に発展できると確信しております。以上、宜しくお願い申し上げます。WeeSeng, TAN (ABK 第2期生 専大卒)

2011/6/28 Chang Chew Chin 张昭成 (マレーシア)

ABKsotsu no syokun e: kifu shimasyou... 我建议大家一起捐款, 然后一起一次的汇过去。
Regards,

2011/11/1 Kenneth Wong (マレーシア)

小木曾理事長様 いつも御世話になっております。シンガポールのマレーシアABKの卒業生のKENNETH WONGです。この度、理事長様及び事務室の皆さんがABK同窓生募金(ABK Alumni Fund)の件で大変ご苦労されているかと思っております。再び大変ご苦労様と言いたいつもりで、このメールを送ります。今、募金の件で東奔西走している最中だと信じています。この間、アジアの友(8-9月)で、校舎建設資金の募金で立てられた5千万円の目標金額はもう既に1千5百万も超えたとのご報告がありました。(われわれの名前もホームページの寄付金芳名録に載せてあり感心しました)。マレーシアの卒業生も大変頑張るなど思っております。あと半年弱でまたまた、募金は何らかの形で増えていくと信じます。且つベストを尽くしたら、かならず、その目的地に辿り着くと信じております。(ちなみに募金期間は去年の4月から来年の3月末までとのことです)(最近、世の中での流行語でIMPOSSIBLE IS NOTHING, お互い

に共感させられるこの英文の言葉もあって)それにより、私ども、もう一度、ABKの卒業生は勿論、それより以外の人達(マレーシアから日本に留学した経験ある方のみ、いわゆるマレーシア留学生同志)もABK同窓生募金の為、今からもう一度、皆様と一心同体で呼びかけの仕事をしてみませんか?この件について、同輩、先輩および後輩たちとメールで相談してから各関係あるところに打診して見ます。ところで、質問ですがアジアの友(8-9月)の分、例えばABK同窓生募金に関し、小木曾友様(2)、田森千恵子様(2)、小木曾健(3)…、と後ろに番号を付けている方はどういう意味ですか?(3)は3回もう寄付金をされたとのことでしょうか?教えて下さい。また折り返し、メールで最新のご情報(募金の呼びかけのこと及びそのあとの進捗ぶり)をご報告致します。宜しく、お願いします。以上 ⇒★ご推察の通り、(2)というのは、同じ人が2回ご寄付して下さったという意味です。それでは、温かいご協力に対し、もう一度厚くお礼申しあげ、ご返事といたします。皆様お元気で。

2011/11/2 Kenneth Wong(マレーシア)

小木曾理事長様 早速のご返信を感謝いたします。今現在、およそ、金額は円に換算すると26万円弱の寄付金が入りました。今回の呼びかけでは、ご存知のように非ABK卒の元日本留学生にもABKの募金活動にご参加いただけます。上記金額は、7割ぐらいは元日本留学生よりのものです。タンキーハンさまからは、再び前回と同額のたくさんのご寄付の約束を貰いました。一応、来月はこちらのポーナースの時期でもあるので、募金活動期間は前回より長くしておきます。来年の1月10日までに。まとめ役は、引続き張先輩(MR.CHANG CHEW CHIN)にお願いしました。彼の方から、旧正月前までに

送金が出来るようにメールで伝えました。また、ご報告を致します。追伸：二枚の先輩達の呼びかけメールを下記に添付致します。ご覧下さい。

1) マレーシアの元留学生高崎経済大学のMr. Foo Siang Seng 符祥盛よりの英文の呼びかけ

2) 張先輩 (MR.CHANG CHEW CHIN) の中国語の呼びかけメールです。非常に感激するメールの内容なので、今回の募金活動には役に立つと思われます。Thanks and Best Regards,

2011/11/1 Foo Siang Seng 符祥盛 (マレーシア)

Dear Ryugakusei friends, I hope to find you well while writing this mail. Looking back, most of us who studied in Japan as Ryugakusei were assisted by a group of Japanese volunteers who offered their helping hands to us without asking for any reward or return many years ago. Today, this group of volunteers insisted to continue their volunteer spirit although they are facing with a great difficulty financially. As an ex-Ryugakusei who was benefited by this great passion, there's no reason that we simply turn our blind eye to this situation and without helping these volunteers to fulfill their dreams. Failing which, it might end up that many other young generations going to lose their opportunities to study in Japan like what we did previously. Last but not least, may I make an appeal to all our ex-Ryugakusei to show their goodwill for this fund raising campaign. Our small contribution shall mean a lot for those who wish to fulfill their dreams in a long run. * Chang-san, can you be the person-in-charge again. I'll

make Jpn.20K donation this time. Cheers,

2011/11/1 CHANG CHEW CHIN (マレーシア)

我最近较长用中文写邮件，写起来也很快，所以继续用中文来写！祥盛说得对，我们大家返回头看看，就是这一帮非常高尚的日本人的协助和努力，我们大家今天都可以有较好的工作和生活！他们很多人牺牲了自己的生活，贡献了他们的青春和时间，为得就是让更多留学生有机会到日本留学，很多人也是希望“偿还”一些过去的历史！我们也因为这些人而得到一些“机会”，所以我们也应该懂得“饮水思源”，况且目前 ABK 依然支援着很多马来西亚的学生！我们里面虽然有些同学不是 ABK 日语学校毕业的，但是很多国际学友会毕业，甚至毕业后大学时期的保证人还是 ABK 理事长，所以，希望大家能尽您一份心意，出一份力量，多少不是问题，“心”和我们的“诚意”才是最重要！让日本人也感受到，我们这帮马来西亚的同学，懂得感恩，懂得感谢！你可能收到 2-3 封同样的邮件，请见谅！

2011/11/2 Lee Mow Tiam (マレーシア)

Ref: 『ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund)』
へのご協力のお願について 元日本留学生の皆様へ 毎度 お世話になっております。昨日 元 ABK 日本留学生 Kenneth Wong さんからメールを頂きまして我々も少しでも力を出せなければ成りませんと思っております。～恩を返す、我々が大変お世話になった保証人の ABK が、ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund) を行っておりますので皆様の協力をお願い致します。ご存知のように我々は 11 月 12 日に KL, JB, Singapore の第一回目元日本留学生宴会を KL で開きますので ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund) を行いましょう。寄付金

額: 一口 RM\$200.00. JB 寄付リスト: 1.Lee MT 李茂添 RM\$1,000. 2.Tan PM 陳碧明 RM\$1,000. 3.Tan CK 陳志強 RM\$1,000. 4.Ong YM 王玉明 RM\$1,000. 5.Leong TL 梁德榮 RM\$1,000.これから JB の留学生の寄付する方が増えると思っております。*JB 日本留学生の皆様へのご協力をお願い致します。** 寄付するつもりの方は小生宛にメールを送って下さい。*以上

2011/12/3 Evelyn Chow (マレーシア)

小木曾理事長 ご無沙汰しております。張徳福の妻の周素蓮 (チャウ・スウリン) です。突然の連絡、失礼しました。マレーシアの Lee Mow Tiam さんから、クアラルンプールでの11月12日 (土) クアラルンプール、ジョホール (Johor Baru) 及びシンガポールの第一回目の元日本留学生の集まり会のメール連絡をもらい、理事長からのメールも添付してありました。その中の募金リストで主人の張徳福の英語の名前が間違っていることが分かり、そのために連絡しました。CHONG TECK FOH (誤) CHONG TEEK FOH (正) 些細なことですが、もし直せなかったら、直さなくてもかまいません。私は現在 JASSO マレーシア事務所で働いています。仕事の場合では本名のチャウ・スウリンより、エブリン (Evelyn) の名を使っています。ABK の卒業生ではないですが、ABK と深い縁があります。小さい力ですが、私からも ABK 同窓生募金 (ABK Alumni Fund) に協力したいと思います。(クアラルンプールの責任者に寄付金を渡します。) 来年4月の学校法人の申請をうまくいけるようお祈りいたします。では、よろしく申し上げます。敬具

2011/11/3 Kenneth Wong (マレーシア)

Hi Ms. Chan (陳小雁) 及び Mr. Tan Yew

Tong へ お久しぶりです。非常に恐縮です。I am Kenneth Wong, your ABK Japanese School friend.(キーハン、ウイセン、soon kim 達の友達です) 我々は (マレーシアの元留学生、特に ABK 同窓生)、ただ今、現在の ABK の新校舎及び運営資金の為に募金を致します。一回目の時に56万円ぐらゐの集金を出来ました。今回は二回目です。11月1日からのものです (上記詳細添付ファイルを確認してください) また、現理事長様と小生のメールでのやり取りも念のため下に添付したので、見て分かるように、現在ちょっとものたりないです。(いわく目標額より遙かにはなれている) よって、直ちに今回の募金を織り組みました (留学生の有志たち)。今回はマレーシアの元留学生の協力も入れさせていただきます。勿論、チャンさんのご出身は香港だが、ご主人は紛れもなくマレーシアのご出身です。お二人は特にシンガポールで日本元留学生として、謂わば出世組ですので、温かいご支援を大きく期待いたしております。今上記、ウイセン (東芝) と僕だけシンガポールで、タン キーハンさんは KL の証券会社に働いています。Soon Kim は、まだ日本で頑張っています。今頃、そろそろ林間学校 (旅行) 及びホームステイのことが、また、たくさんの思い出が続々と脳裏に描かれたでしょうか? また田井さんの顔つき (前理事長様) のことも頭中に浮かんだでしょうか? 書ききれない程、まだまだあります。さて、こちら元留学生による募金期間は一応の期間として来年の1月10日までです。これにより、お二人の募金活動へのご協力を御願いたします。ありがとうございました。Mr. Tan & Ms. Chan Thank you for reading abv. email. We are just here to do our part here, to support them to achieve jpy 50 mil s . A LITTLE TOUGH, but let's provide them some energy & hope though we

are not enough to help. As I informed them in the email below, not to give up, "impossible is nothing" is quite commonly now in the younger generation. Pls contribute your donation to ABK. And I AM SORRY TO DISTURB both of you. & We had two files quite big memory files. I am sorry abt it. Thank you very much.

追伸：1) 小木曾さん(現理事長様)のメールで分かるようにご寄付下さった方は、金額の多寡にかかわらず、お名前を記念名板に刻印し、新校舎に掲げて長く保存させていただき予定ですが、さらに、5万円以上ご寄付下さった方には記念楯を贈呈する予定です。(添付写真ご参照)

李茂添

気強様、克偉様へ KL の留学生の寄付についてご協力を願ひ致します。寄付リスト：1.Foo HH 符気強 RM\$1,000. . . . 備考：寄付するお金を集めて後、下記口座に振り込む。

For those in Malaysia, 1 口 RM200, You may bank in the money to the following Account: 以上 宜しく願ひ致します。敬具

2011/11/8 Kenneth Wong (マレーシア)

小木曾理事長様 こんにちは。いつもお世話になります。先日もう大勢の方々にメールの発信を致しました。(メール先が増えていたので、再びを) また、今週末も偶然、先輩達の集まり及びゴルフコンペがあり、連絡先がまた増えます。大いに期待できます。(12、13日) 募金の金額は段々と増えるようになる一方です。今回も大勢の国際学友会元卒業生の偉いご支援を頂いております。特に国際学園日本語学校元卒業生の李茂添先輩のマレーシアでの呼びかけも大きいです。こちらの勢いは燃えています。これからも、情報により、ABK にお世話になった尊敬す

るマレーシアの大先輩 黄金財さん及び 汪坤才さん、お二人方も既にマレーシアで募金の呼びかけに力を入れ、取り組んでいるところです。私ども、同窓生として二人の先輩たちの気持ち以上に全身全霊でやって行くと信じています。頑張ります。それでは、必要であれば、また発信を致しますので宜しく、願ひします。以上
Thanks and Best Regards,

2011/11/11 Kenneth Wong(マレーシア)

小木曾理事長様へ下記は TAN YEW TONG 様からのメールを転送をさせていただきます。以上。
Thanks and Best Regards,

Tan Yew Teong(マレーシア)

Kenneth さん、始めまして、お世話になります。出張先から帰って来たところで、返事が遅くなって本当に申し訳ありませんでした。小木曾様から同じようなご連絡が入りました。Kenneth さんの暖かいお心を見ると、感心します。小生は ABK ではなく、蒼生寮の出身ですが、よく ABK まで遊びに行っていました。寮の先輩、工藤さんや近藤さんたちもまだ元気に ABK で活躍されているようです。今後 ABK のために、まだまだ皆さん、Kenneth さんのお力を借りなければならぬところがあると思いますが、よろしく願ひします。今度我ら二人は日本へ行くときに、お持ちするつもりです。ご連絡を有難う御座いました！タンと小雁(Tan Yew Teong)

2011/11/29 Kenneth Wong(マレーシア)

小木曾理事長様こんにちは、日本の募金キャンペーンも忙しいと思います。再びをこちらの近況を報告を致します。こちらでは、ABK 同窓生且つ元留学生により ABK 募金キャンペーンを大変活発に行っている際中です。尊敬する大先輩達も各自でメールの呼び掛けのほか、今、関係

者各位が電話攻勢で積極的に働きを見せております。特に符気強先輩、李先輩及び張先輩の働きは大きなようです、今はシンガーポールだけでなく、マレーシアの各地、ジョーホールであり、KLであり、北部のペンナンーでキャンペーンを蔓延しつつである。1) 小生も先々週シンガポールに株式を上場している UNIDUX 社、社長にあたるペンナンー、マレーシアご出身のタンご夫妻 (Mr. Tan Yew Tong) にもこの件で打診をしていました。(彼と一回、大昔、会ったことがあります) 因みに奥様のチャン小雁(陳)さんは、香港出身の ABK 同窓生で、ご夫妻からは近いうちに出張の時に ABK の理事長様の所に顔出しと同時に寄付金を持って行きたいというような趣旨のメールを頂いております。その時に、ご夫妻によろしくお伝えいただければ嬉しいです。2) また、現在、日本で活躍されています東芝(株)川崎の陳少勤さん (ABK86年卒) からの10万円の寄付金は今回の募金に当たります。とても嬉しいニュースばかりです。3) しかしながら、小木曾さんからの芳名録情報(9月までの)では、タイ国が一位で、昔から ABK と一番親しい間柄で本当に感心します。マレーシアのランキングは今5位に留まっています。ベトナムは人数は少ないのに、マレーシアより遥かに貢献度は桁違いに高のは一目瞭然です。さて、これ3)により、先週、下記の方々及び小生がジョーホール(マレーシア南部)で ABK 募金仮会合を設け直ちに開きました。それも李茂添先輩の働きかけたものです。出席者は 1. NG KIM CHAI 黄金財大先輩(国際学友会) 2. アン坤才大先輩(国際学友会) 3. TAN CHEE KIONG 陳志強先輩(国際学友会) 4. MARK KEE 李茂添先輩(国際学園) 4. HH FOO 符気強先輩(国際学友会) 5. CHANG CC, 張詔成先輩(同窓生) 6. JOHN LEONG 梁德榮(国際学院) 募金ターゲットは特に設けてはありませぬ。募金を増やせる案

も沢山出てきました。だが、上記2番のアン大先輩からよかったですら、ABK 日本語学校歴代同窓生リスト(1996年までで結構です)が提供いただけるかどうかを小木曾理事長様にお伺いをして欲しいとのご依頼をありましたので、誠に恐縮ですが、理事長様に歴代同窓生リストについてご検討及びご判断の上、ご返事をお願い致します。(ぐれぐれもこの募金に使うという前提のみであることです、ご心配はございません) また、5番の符先輩はマレーシアに株式を上場している SCIENTEX 社の社長である PJ LIM さんにも打診をしてみますとの案もありました(国際学友会ご出身)。もう、一ヶ月くらいは経ちましたが、勢いはまた、また、燃えつつあることを確信しています。出来ることを、いつも皆さんと一緒に頑張っていく所存だと思っております。小木曾理事長様のご支援もいつも、宜しく、お願い致します。それでは、必要であれば、または発信を致します。以上。Thanks and Best Regards,

2011/12/1 Kenneth Wong

関係者各位へ お早う御座います。皆さん、ご苦勞さまで。上記資料、ただ今、ABK より入りましたので、上記添付ファイルをご覧下さい。ABK 同窓生 1900 年度までの資料です。これからの募金にも役に立つと思います。念のために、一応、理事長様に下記の約束をするとある訳なので、皆さん宜しく願います。(ぐれぐれもこの募金に使うという前提のみであることです、ご心配はございません) また、今朝、アン先輩の11月の送金分のメールの件につて、幹事の皆さんたちが投票したら皆の意向にも明瞭であり、どうぞ又、別の添付ファイルを用意されたので。時間が有ったら、各自で意向を記入することをお願いします。符さんの案も良くない訳でもないですが、立場はそれぞれです。小生は

今のところは JOHN LEONG と同じ立場です、a,b,c お名前順位で妥当です。それは、次のメリットがあります。1) we can check one by one in thoroughly, the donators name, whether spelling in English & Chinese whether in orderly. This is very important as this is going to be listed in the ABK RECORD. We must respect the donators even in less amounts. -- priority given to their name. 2) For Japanese, as you know, particularly they would go for the ABC sequence of donation name & the amt is 2nd priority. And our intention would meet their sense & requirement. 3) we can easily check out the name if we arranged in the ABC 順位で申し分けありませんが。DONATORS のお名前の綴りは、非常に大切ですのでくれぐれも気を使って、よく資料に従い、チェックの上、不明のある所は遠慮なく、お問い合わせ下さい。以上、よろしく、御願います。Thanks and Best Regards,

2011/12/3 Kenneth Wong (マレーシア)
 小木曾理事長様へふたたび、すみません。今月中には、寄付金 11 月分がアンさん(ご存知のように我われの大先輩、東工大出身)から銀行振込みをする予定です。その後も、引き続き、募金活動を皆とやりますので宜しくお願いします。月ごとに送金をする予定が決められたので、ご報告致します。なお、その他、関係するメールを添付しますので、ご覧下さい。良い週末を過ごしますように。ケンネスより。Thanks and Best Regards,

Ng Kim Chai (マレーシア)

アンさん及び李さん添付ファイルに 11 月送金分をどの様に ABK に送るのか、ほとんどが、意

見が寄せられましたが、残りお二人様だけです。お早めに決めてください。以上

PLS SEE BELOW E MAIL FROM Ng KIM CHAI TO ME BY EMAIL REGARDING HIS IDEA FOR SENDING LIST TO ABK. The mail dated 1 Dec 2011 below was sent by me (Ng Kim Chai), not Ang san. My suggestion is to submit 2 lists. List 1: Arrange name based on amount from high to low. Easy for ABK to do commendation. List 2: Arrange name alphabetically without amount. Easy for ABK to list up in アジアの友 .Regards

2011/12/12 WONG Kuok Hung 黄 國鳳 (マレーシア)

黄さん、ご無沙汰しております。いま、日本の会社ですが、仕事の場合はほとんど海外です。ただし、今年から日本にいる時間は海外より多くなってきました。しかし、お恥ずかしいですが、日本にいるのに、ABK の募金活動のことは全く知りませんでした。募金キャンペーンの件は了解しました。適宜に ABK に連絡します。ところで、ABK Alumni List は ABK が作成しているのでしょうか？ 最近、日本にいますが、ABK や早稲田の OB・OG の連絡先が分からないので、全く連絡が取れていません。おそらく、まだ日本に滞在している方々も少ないかもしれませんが、皆さんは今何をしている でしょうか？

2011/12/12 Kenneth Wong (マレーシア)

黄さん、お早う御座います。日本の仕事はいかがでしょうか？お忙しいですか？再びすみませんが、最近こちら(シンガポール及びマレーシア)では、下記のようなキャンペーンを行っています。募金内容及びその他、添付ファイル

をご参考にしながら、募金キャンペーンをご支援して下さい。また、ご送金の場合、ABKに直接にしても構いませんので、ご連絡をお願いします。こちらの連絡元留学生リストにも載せられますから。今回の幹事名も上記に記載しますので。僕も時間の許す限りその他及び関係メールを転送させて頂きますので、宜しくお願いします。追伸：先輩達の呼び掛けメールも乗せましたので、ゆっくりご覧下さい。Thanks and Best Regards,

2011/12/12 CHIN SAW KIUN 陳少勤 (マレーシア)

小木曾理事長様 CHIN SAW KIUN 陳少勤です。さきほど(2011/12/12)、みずほ銀行本郷支店へ10口分を送金しました。ご確認願いますよろしくお祈りします。

2011/12/12 Kenneth Wong (マレーシア)

小木曾理事長様メールをありがとうございます。さすがに、いままで、キャンペーンを行って以来一番嬉しいニュースですね。これはすぐにも連絡して置きます。(PJ LIMさんの寄付金について) *ところで、東京都から12月中の寄付金予定総額の報告を求められています。先日のメールで、アン・クン・チャイさんのグループからの送金を12月中に送ってくださる予定とのご連絡をいただきました。大変恐縮ですが、もしできましたら、大体の金額を教えていただければ、幸いです。回答は下記になります。先程幹事の符さんのところから下記のような趣旨メールを頂きました。

FOO HEE HIANG

皆さん今日坤才先輩と打合せた結果を報告します。1) 一回目 ABK への送金について ●今週

中に坤才先輩は最初の RM49,700 を一回目の送金として振り込む予定 ● ABK への連絡メールはドラフト中 ● ABK へ依頼する事項①寄付リストに基づき、ABK からそれぞれの寄付者に領収書を送付し、関係者には CC に落として頂く②アジアの友を、最低寄付者の人数分を送付して頂き、こちらから分配する ● 上記の依頼により、当方から送付した寄付者のリストのメールアドレスは必ず正しいものにあることが必要となりますので、黄色に潰されている方の分を確認して正しく直す必要があります ● これから毎月に RM 5 万以下に送金 ● 送金を行われたら、寄付者に、寄付者リスト及び送金伝票を送付し、上記の内容を連絡します。但し、寄付者リストには合計金額だけ表記し、個人別の金額は今時点には発表しないことにする 2) ABK より頂いた ABK 卒生リストについて ● 添付リストには入学年別にまとめましたので、各年度に皆さんにより判断で代表者を選んで(多人数)その年度入学の卒業生を対象に寄付金の呼び掛けを行ってもらう。

.....
P/S: 1) 上記分送金は今週になる予定です。2) シンガポールのマレーシア元留学生在住の方では詔成先輩から、来月ぐらいの送金になるそうです。(一段と区切ります。)金額は今整理中です!! また連絡をします。Thanks and Best Regards,

2011/12/12 Kenneth Wong (マレーシア) お世話になります。お問い合わせの件ですが、お名前を公表ということは、これは月刊誌(アジア友)に告知することでしょうか? それとも、誰かがメールで関係する所へ連絡する。いまいち、ちょっと具体的にどう言うものなのかが小生は掴んでないので、ご助言は出来ませんが申し訳ありません。ちょっと聞きたいことが

あります。恐縮ですが例えば、陳さん(CHIN SAW KIUN)とか林さん(PJ LIM)達の寄付金は、ABKに直送になったが、最終的には(報告は)マレーシアという募金枠になるわけでしょうか?特に今度は林さんの場合は代りに日系会社名義で、日本国枠になるのですか?我われのやり方として、最終的に、幹事さんから皆に寄付金のすべて、各位の寄付金額の状況をメールで一括でお知らせする、つまり公表することになります。(注:皆に知って貰う事、これは勿論、新たに募金目標があった場合はやり易い為であること)今の時点では、幹事の数人だけしか寄付金額の状況は知りません。Thanks and Best Regards,

2011/12/15 ANG KHOON CHYE 汪坤才 (ABK 同窓生募金・マレーシア発起グループ代表)

小木曾理事長殿 久しくご無沙汰して、本当に申し訳ございません。ABKの皆様は如何お過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。昨日(2011/12/13)、皆さんから集めました11月分の「ABK 同窓生募金」、合計RM49,500(日本円1,205,000)をABKのみずほ銀行の口座に振り込みましたことを連絡させていただきます(添付ファイルをご参照)。この送金は、皆さんが一時に私達の口座に入金し、当方からABKへ送金する形になっていますので、皆さんに当方が一時的に扱ったその寄付金がABKへ届いたことを報告しなければならないため、小木曾理事長様に下記のことをお願いたく宜しくご検討願います。

お願い事項:1)添付ファイルの「寄付者リスト」の皆さんに、ABKから直接領収書(額が明記したもの)及びお礼の返信をメールで行なって頂けたらと思います。また、「ABK 同窓生募金・マレーシア発起人グループ」の皆にコピー

で落として頂きたく申し上げます。2)今回の寄付記録が記載してある「アジアの友」が発行しましたら、寄付者+発起グループの人数分を下記の住所に送って頂き、当方から皆さんに配分します。また、マレーシア中央銀行から制限で、送金のリミットはRM5万になっていますので、今回はそのリミットに合わせて選択的に寄付者を選んでいましたことをご確認願います。これから毎月定期的に集めた寄付金を送りたいと考えていますので、その都度連絡させて頂きたいと思えます。末筆ながらABKの皆様へ宜しくお伝え下さるようお願い申し上げます。敬具(添付ファイルグループメンバー表を参照して下さい)

2011/12/15 Kenneth Wong (マレーシア)

理事長様へこんにちははお忙しいところ、すみません。今週中に同窓生の募金活動のお名前リストが出来上がりますが。(ちょっと時間掛かりすみません)。大体300人になるところで、大体マレーシアの中華系の元同窓生のみでピックアップしました。新たに呼び掛けするメール内容のために下記のことを少しでも分かれれば、又あれば、大変役に立つだろうと思われます。教えてもらえば、幸いのことです。例えば、1)奨学金のこと-主な奨学金財団のお名前及び学生人数1983-1990年度の学生さんの中で、会館の関係で大学時代に奨学金を2年とか1年貰った方々は 何人いるでしょうか?例として:タンウイセンさん(専修大;佐川奨学金)。小生の想像では25人は越えるでしょうね?(注:学生のお名前情報ではなく)2)先生からの励まし/シンプルなノート(今回の新たに募金呼び掛ける為-対象は上記方)。いまま、会館か日本語コースと親しい関係を持つ先生方がまだいらしゃるでしょうね?小生の時代(1984年)、例えば、小林先生、長野先生、木村先生

(中村?)!!がいます。たしかに、このまえは、李健りんさん(本田バイク社、バンコク支店)から、今年4月にまた小林先生が病院で故人栖原さんの最後の見舞いもされたというメールの連絡がありました。その外に、1988、90年とかの先生がいましたら、助かるのですが。2-3通ありましたら、幸いです。各先生たちが皆(対象は上記同窓生)に対し、募金について本人が書いた激励の様な趣旨のメール、それとも、シンプルなノートがありましたら、募金・寄付金の栄養剤になるはずである。(特に小生の名前をいれずに書いたほうがパワーになるでしょう?その辺は先生たちに任せますので)勿論理事長様のメールはネットでは検索が出来ますので。理事長の11月ごろの募金関連速報を拝見しましたが、さすがに、一灯やがて万灯となる如くはいいね。また、皆を刺激なさって、これから寄付金はドンドン増えるでしょう。勝手にいろんな物を頼みましたが、本当に恐縮です。申し訳ありません。それでは、どうぞ宜しく、御願います。以上です Thanks and Best Regards,

2011/12/18 Foo Hee Hiang (ABK Alumni Fund マレーシア発起人グループ)

ABK Alumni Fund、一回目送金者皆様/ABK Alumni Fund マレーシア発起人グループの皆様
こんにち。2011年12月13日にて Ang Khoon Chye 先輩より一回目の送金を行いましたことを報告させていただきます。詳細の金額は下記に示します。ABK 入金側：日本円金額 ¥1,205,000、銀行手数料 ¥4,000、実質入金額 ¥1,201,000 マレーシア送金側：リングット金額 RM48,482.12、銀行手数料 RM25.00、合計費用 RM49,507.12 皆様から預かっている合計金額は RM49,500.00 でしたが、足りない分は Ang 先輩のポケットか

ら埋めることになりました。それから、ABK より皆様に個別にご寄付を頂きました金額の領収書を皆様のメール宛に発送する予定になっていますが、年末でもあり人数が多いので、少し時間がかかるとお思います。備考：寄付者リストには、完全に記入されていない情報がありますので、訂正又は追加する方がいらっしゃいましたら、私に連絡して頂けたらありがたいです。

2011/12/19 陳少勤 (マレーシア)

陳少勤です。(財)アジア学生文化協会(ABK)に日本語コースがあり、以前、私はそこで日本語を学んでいました。今、新校舎建設の運営資金の募金活動を行っており、各国 ABK 同窓生・留学生・日本人から多大な支援を寄せています。内容を添付します。ABK の HP <http://www.abk.or.jp/>

2011/12/19 Kenneth Wong (マレーシア)

Subject: FW: ABK 寄付金—ABK 孕学生への戦略

アンさん、符さんお早う御座います。ABK 同窓生リストについてリーアレンジ及びご提案を頂き、ありがとうございます。ラストセブンはこちらから取り消します。(91年以降の方) GOPAL NG さん(1983年度)も一応追加致します。また、符さんの上記リストに基づき、同窓生募金状況及び各情報(勿論金額は表示なしで)を付け加えるので、宜しく願います。同窓生の各年度幹事さんも小生が自分で勝手にリストを作りました。こちらからも再度に同窓生に呼び掛けのメールを準備しておりますので(最中です)、平行線で募金活動を進めていくように宜しく願います。(報、連、相のため) ABK に多大のご支援、ご協力を頂き、本日にいつも心より、感謝しております。p/s: いま、ABK から、歴代先生方々から(1983-1990

年)、同窓生対象にエッセイを待ってますので、これを入手してから同窓生皆に公表します。宜しくお願いします。以上

p/s:人数が多い為、91年以降はABKからやって貰う事にしました。(小木曾さんには12月初め頃に打診して、連絡済み) Thanks and Best Regards,

2011/10/9 柳瀬修三 (在タイ)

日本でも報道されている通りに、今回の洪水は大変な被害が出ています。12-17日海の水位が高くバンコク市内も洪水となる危険性が大きいとのことです。ご承知の通りアユタヤにある工場団地の日系企業の工場も浸水して操業を停止しています。16日(日)同窓会の会がどうなるかを心配しています。

2011/10/11 柳瀬修三 (在タイ)

ご連絡有難うございます。今回の洪水は今までに経験したことがない程の大きさで13日から17日まで及び月末が危険だと報道されています。今日はタマサート大(ランシット)からドンムアン近くでも洪水となっています。14日ご来タイ予定ですよ。エアーポートからホテル(スクンビット)までは問題ないと思いますがそのほかへ動かれる時は様子を聞いてから行動してください。皆さんが来られるのに何も出来なくてご無礼をお許してください。私の自宅も浸水の危険があり、車は高い建物に駐車させてもらい家の前と後ろには土嚢を積んで(防げるかどうか分かりませんが)備えています。16日(日)は水位が高い時期に入っているため同窓会の会に参加できるかも心配しています。

2011/10/24 柳瀬修三 (在タイ)

洪水の為に家の片付けでご返事が遅れて恐縮です。洪水がドンムナンまで来ていて自宅への到

着は今夜から明朝だと思います。1階の荷物を2階に揚げるだけですがそれが大変で今一休みしています。報道では1.5メートル浸水することによってそうだったら自宅を離れるしかないという覚悟しています。11月28日(月)に延期になったタイ同窓会のイベントの件ですが、この洪水が報道通りとすれば3-4週間バンコク市内は浸水すると云ってまますのでとても開催できる状態ではないと思います。

2011/11/6 柳瀬修三 (在タイ)

小木曾様ご無沙汰しています。小木曾さんも本当にご苦労様です。やらなければいけないことは山ほどあるでしょうが身体のことも考えながらお過ごしください。当地は未曾有の洪水でその被害は大変なものです。私の家も30-40CM冠水していて4日前からパタヤへ行く途中(80KMほど)で洪水の影響がないバンセンに避難しています。多分今は床上まで浸水しているでしょう。電気も水道も止め、前後に土嚢を積んで閉め切りました。隣近所の方々も避難している為に住宅地はほとんどだれも住んでいない状態です。報道では盗難が多発しているので一度様子を見に行きたいのですが近くで水位が高く通行止めとなっています。洪水は次第に街の中心に進んでいます。ピパットさん、ピラットさんのご自宅は現在のところ冠水していませんがいつどうなるか分かりません。このような状況で関係者で被災している方も多いので11月28日の同窓会のイベントは再度延期となる可能性が高く、本年中は難しいと考えます。個人的な意見ですが来年に延ばした方が良いでしょう。

2011/11/11 Mrs.Pimpilai Lertphaiboon
President, ABK & AOTS Alumni
Association (Thailand)

Dear sir, Refer to the flood crisis in Bangkok still serious and not yet recovery. We regret to inform you that we have to postpone the event of the 43rd Anniversary of ABK & AOTS Alumni Association (Thailand) for Raising Fund to rebuild ABK Building in Japan. Please accept our deeply apology for unexpected incident. When we reschedule the event, we will urgently inform you. Best Regards (Tel. 02-238-5235-6 Fax. 02-634-0265 E-mail : alumni@abk-aots.org / pimkewt@hotmail.com)

2011/11/21 Ms.Maliwan Dejaritt,
Secretary-General, ABK & AOTS Alumni
Association (Thailand)

I am not sure whether Pimpilai-san informs you the postponement of Japanese Cultural Night for raising Fund to MARCH 22, 2012. We decide to announce the 2nd postponement, because the flooding situation has not recovered as we expect. Please be informed and accept our apology for any inconvenience, Best regards,
(www.abk-aots.org,email: alumni@abk-aots.org)

2011/11/28 柳瀬修三 (在タイ)

ご無沙汰しています。先週土曜日に戻りましたが何から片付けようかと戸惑っています。家の外側はすべて防水の為にシリコン剤で目止めしていてそれを厚手のプラスチックシートで覆い、更にボードで補強後に土嚢が2-3段積まれているのです。突然洪水となったならばそんなことする時間もないのですが今回の洪水は水が

迎り着くまでに何日も掛かっているのです。家内がインターネットでこの方法が良いとか更にこうしたら防げるとか調べてくるのでこんな結果になりました。今日も少し取り除く作業をしましたが手間が掛かってやられてられません。すぐは出来ませんのでゆっくり片付けます。さてABK - AOTS 同窓会の来年3月のイベントですがこの洪水がいつ治まるかです。バンコク市内(ドンムアン他)、郊外はまだ30-50cm程度も洪水です。水が引くのに少なくとも年末までは掛かるでしょう。「このイベントにすでに参加費を払っている方も居られるでしょうし、また役員会の任期とも関係しているようにも思います。日本の会計年度末と重なりますが、当地でも3月は忙しい時でどちらにしても多くの参加者を見込むのは難しいようにも思われます。最終的にはタイの役員の方々が熟慮された決定だと思います。田井さんの奥様にタイの友人達は皆さん元気で居られるとお伝えください。私が親しくお付き合いさせていただいている方で直接今回の洪水の被害を被ったことは聞いていません。落ち着きましたらまた当地の状況をお知らせ申し上げます。

2011/11/28 柳瀬修三 (在タイ)

皆様 先週の土曜日にシーラチャーから自宅に戻りました。屋内に少し水が入りましたが修理が必要な程でなく、また盗難もなくて良かったです。土嚢は入り口だけ除き、出入りは1か所だけにしてもう少し洪水の様子を見たいと思っています。冷蔵庫の中を全部処理しないで避難した為に酷い状態となっていました。しばらくは匂いが消えるまで使えません。当初2-3日の避難と思っていたので仕方ないです。

2011/11/4 賈蕙萱 (中国)

小木曾友理事長殿 ご連絡を拝読しました。元

来礼儀上でそのお金を日本円に両替して御手渡しの方がよいですが巧みにお会いすることになって、急に御願ひして、ご迷惑をおかけしました。

有難うございました。敬具

2011/12/4 張勇（中国、在日）

小木曾先生大変、ご無沙汰してしまい、申し訳ございません。メール頂き、ありがとうございます。（財）アジア学生文化協会は、老朽化より建物を新しく建て替えることを知り、心から応援いたしたいと思ひます。「ABK 同窓生の一入として、心の意を表示、わずかばかりですが、寄付させていただきます。後日、送付いたします。（財）アジア学生文化協会は、私にとって大変親しみ、思いになる協会です。また先生のことも大いに尊敬しております。先生から久々のメールを頂き、心から嬉しく思ひます。少し元気になったら先生にお会いに楽しみにしております。取り急ぎ、お返事まで。

2011/12/4 寺沢宏次

小木曾友様大変お世話になりました。後日、寄付させていただきますと思ひます。今後とも何卒よろしく願ひいたします。

2011/12/4 横澤喜久子

小木曾先生お元気で過ごしていらっしゃいますね。すっかりご無沙汰いたしました。メールをいただき嬉しいです。私もわずかですが募金に協力させていただきます。そして呼び掛けたいと思ひます。寒さに向かいます。くれぐれもお身体にはお気をつけくださいますように。

2011/12/5 村田忠禧

小木曾友様ご無沙汰いたしております。上海で

はお世話になりました。帰国後、忙しい日々の連日で、いまだに曹先生にもお礼のメールを出しておりません。ABK 同窓生募金に気持ちだけですが、協力させていただきました。みなさまの事業がいつそう発展されることを願っております。

2011/12/5 新井由利

小木曾先生ご無沙汰いたしております。厳しい状況の中、お忙しくご活躍のことと存じます。この度は、「ABK 同窓生募金」のご案内をいただき、ありがとうございます。お声を掛けていただき、嬉しく存じます。小さな力ではございますが、是非、参加させていただきます。

2011/12/5 吉川英一（在中国）

小木曾理事長殿 先般のツアーではお会いできて、また種々お話ができて幸甚でございました。その際にアジア学生文化協会の果たしてきた役割とこれまでの貢献について理解したつもりです。小生は一介の会社員故多くのことは出来ませんが、趣旨に賛同し、ささやかな志を贈らせて頂きます。時節柄ご自愛ください。そして益々協会のために頑張ってください。

2011/12/7 尚捷（中国）

理事長小木曾友殿 在学中大変お世話になっております。この度、ホームページにて同窓会募金のご案内を拝見しました。趣旨に賛同して寄付いたし、先ほどご指定の口座に100口振り込ませていただきました。ご査収のほどをお願いいたします。万が一行き違いがあればお手数ですがご一報願ひします。ABK のますますのご繁栄を願っております。

ご連絡ありがとうございます。こちらこそ在学中大変お世話になりまして、深く感謝しております。小木曾理事長をはじめ日本語コースの先

生方々にもよろしくお伝えください。今後ともよろしく願います。(12/8)

2011/12/9 町田航

小木曾様ご連絡どうもありがとうございます。寄付させていただきました。ABKの魂が社会に広がっていくことを祈っております。私は半年前よりシドニーの大学で環境工学のポスドク研究者をしております。シドニーもアジア系のコミュニティがどんどんと構築されつつある面白い場所です。研究室のウェブページです。宜しければご覧ください。http://www.lceresearch.unsw.edu.au/people.htm またいつかお会いできる日を楽しみにしております。

2011/12/9 大西一郎

小木曾さま太田記念館の管理をさせていただいております大西です。メールを頂きましたが、たまたま昨日まで海外に出ており返信が遅れました。南三陸海岸で仕事をしている父が、津波の直撃を受けたため資金に余裕がなく、ABK同窓会募金には5口だけ振り込ませていただきます。お金の代わりに、一つアイディアですが、テレビに取り上げてもらい、パブリシティを行うというのはどうでしょうか。実現するかどうかは分かりませんが、日本テレビに多少の伝手があり、必要なら話をしてみます。とりあえず、ご連絡まで。

2011/12/9 穂積亮次

理事長小木曾様ご無沙汰しております。ご案内ありがとうございます。情勢が激変するなかご苦勞のこととお察し申し上げます。手元不如意にてはなはだ些少で申し訳ありませんが、みずほ銀行の口座に5口振り込みました。ご健闘を祈りあげます。

2011/12/12 斎藤雅史

遅くなりましたが本日みずほ銀行の方へ1口振り込みました。僅かで申し訳ないのですがご容赦ください。

2011/12/14 山下靖典

心ばかりですが送金させていただきました。

2011/10/28 中森有紗 (Alice) (ブラジル)

ご多忙中のご連絡ありがとうございます！私が1992年に広島へ研修させて頂いたとき、アジア文化会館の皆様には大変お世話になりました。心がとても暖かい皆様、明るい環境の中で研修期間を過ごす事ができまして、本当に幸せでした。いろいろと大変お世話になりましたし、わずかの寄付をさせて頂きましたので、ABKの皆様には何かとお返しが出来れば嬉しいです。それでは、アジア文化会館の皆様へどうぞよろしくお伝えお願い申しあげます。地球の裏側のブラジルより、アジア文化会館の皆様のご繁栄をお祈りいたしております。先ずはご連絡及びお礼にて失礼致します。



ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名称：財団法人アジア学生文化協会
ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)
所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を過ごし、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舎の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、A B K 留学生友の会との連携・協力

◆会費（年額）◆

正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

後記

マレーシアの私費留学生に背中を押され1983年に60名でスタートさせた当財団の日本語学校。長年の懸案であった学校法人化（準学校法人・各種学校）にいよいよ着手します。最終計画案を実施に移す矢先に3月11日の東日本大震災とそれに付随した福島原発の事故に遭遇し、その影響で海外から来日する学生数が激減している。そこで計画を見直し2期に分け予定通り実施することになりました。予期せぬ震災と原発事故、更にこんな状態下の円高、ドル安、ユーロ危機、タイの洪水等々、当財団のターニングポイントの計画進行中に様々な阻害要因が立ちはだかっていますが、2013年12月には小ぶりな新校舎ができる予定です。

新しい日本語学校は、これまでのABKの関係者の力を結集し、今後も皆さまに見守っていただきたく同窓生はじめ、関係者、本事業の賛同者等の皆様に、学校法人申請に必要な所定の運営準備金のご協力を得たいと、2010年6月からABK同窓生募金を開始しました。目標の、5,000万円まで今道半ばです。更なる努力を払う所存です。ご協力よろしく願いいたします。

ABK同窓生募金は、当財団と関係の深いタイから早々に多額のご寄付をいただきましたが、引続き募金を継続していただいています。また、マレーシアからは、昨年、募金開始後すぐにシンガポール在住のマレーシアのKenneth WongさんがマレーシアのABK同窓生32名から集めてくださったご寄付を早々に送金してくださいました。また、今年は、Kenneth Wongさんが再び登場し、ABKと連携を取りながら、大先輩、日本語の同期生、先輩、後輩、更に知友会メンバー（協会が来日する留学生のための身元保証から大学卒業までの各種身元保証をした留学生の会）等、当財団と係わりあるたくさんの方々の皆様と連絡を取り、理想的なご協力体制を練り上げています。更に大先輩が発起人会を立ち上げ、成果を上げてくださっています。発起人会のメンバーには30年前にABK日本語学校をつくる時に係わったNG KIM CHAIさん、後輩のAng KHOON CHYEさん等、ABKと共に歩んでくださった方の名前があります。再び係わりを持っていただき感謝しています。そのほか、各地の同窓会から、個人から、たくさんのご寄付をお寄せ下さった方も多々あります。心からお礼申し上げます。しかし、まだまだ、ご協力者の数が少ないので、今後は、できるだけ寄付者の数の増加も目指し、目標を実現させねばなりません。本号では、マレーシアのKenneth Wongさんはじめ皆様の思いのこもったメールを掲載いたしました。今年は、災いのない明るい年を迎えられるよう切に願っています！ 今年もどうぞよろしく願いいたします！（F）

アジアの友 2011年12月号・2012年1月号

2012年12月20日発行（通刊第494号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友
編集 友の友編集部
発行所 財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2-12-13 (☎113-8642)
電話番号：03-3946-7565/4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)
2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN
☎+81-3-3946-7565/4121 ☎+81-3-3946-7599
Email: tomo@abk.or.jp
Home Page: http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000円）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。